

広報
ぬまた

public relations
Numata
[こうほう・ぬまた] Apr.2005 No.433

4

**特集：自立元年 我が町再生
平成17年度町政執行方針**

沼田町公式ホームページ

<http://town.numata.hokkaido.jp>

表紙：沼田小学校入学式（4／6）

平成17年度 町政 執行方針

地球規模で広がる温暖化に対する対策や食糧危機に対する対応のあり方など生存するための安全安心が求められ、環境保全が大きな課題として取り上げられている今日、地域の役割、特に農業、農村が果たしてきた多面的機能をどう維持、発展させるかは我が国の将来にとって欠くことのできない基本戦略といっても過言ではありません。

今こそ勇気を持って農業、農村を守り、地方自治の基本精神である真の分権社会を実現するために、私も地方から積極的に発信をしなければなりません。

勿論、我が町自らの行財政改革は必要であります。町民の皆さんの視点に立って改革を進め、負託に応える新たな、まちづくり、行政課題に更に全力を傾注していきます。



自立元年、 我が町再生

平成17年度 町政執行方針 沼田町長 西 田 篤 正
Atsumasa Nishida

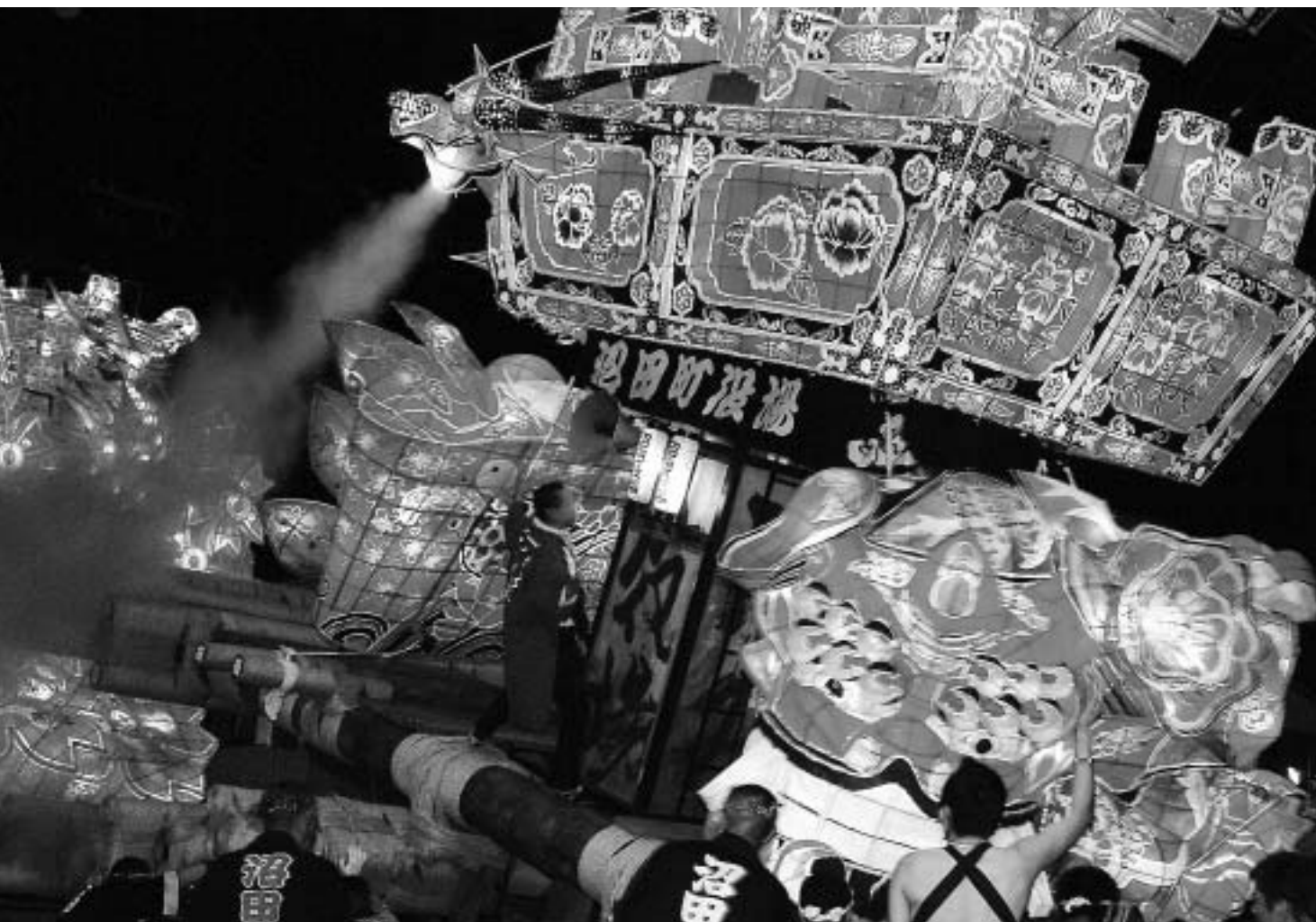
我が国の経済は、長い景気の低迷から脱し、回復の兆しが見えはじめたといわれていますが、北海道内は未だその効果が波及せず、加えて国家財政の逼迫による地方交付税の削減等の影響が地方財政の著しい悪化を招き、我が国の将来は危惧せざるを得ない現状にあります。

一方、本町においても昨年九月、北海道に上陸した大型台風十八号により、農業ハウスや屋根の飛散、倒壊等、大きな被害を受け、加えて米価の著しい下落により基幹産業の農業が大きな打撃を受けたことは、農家経済のみならず、町全体の経済にとって大きな痛手となりました。

国、地方合わせて七〇〇兆円にも及ぶ負債を抱える我が国は今、国の歳出を抑えるべく市町村合併や地方交付税の削減等を強力に推し進めています。私は、国の基礎である地方が活力なくして国の財政が上向くことはないと考えています。

多くの先人が苦勞のうえ築かれた本町は、昨年、開基一〇〇年の節目を迎えたところでありますが、市町村合併の大きなうねり





の中、北空知一市五町で構成する北空知地域づくり検討会が合併法廷協議会に移行の際、これに参加しないことを決意し、当面は自立の道を歩むことを選択しました。

私の政治信念であります「この町に住んで良かった」と実感できる「公正で公平な住民参加のまちづくり」を実現するため、町民の皆さんと共通の理解と認識のもと決断しました。

予想される将来の極めて厳しい行財政環境の中、今後、どのような視点から行財政運営を図り、本町が自立再生をするかの指針となる「我が町再生プラン」を昨年十二月に策定したところです。

当プランは、第四次総合計画の計画期間であります平成二十二年度までの六カ年とし沼田町が自立再生に向け、どのような改革と町づくりが必要かを具体的にまとめ、町づくり町民会議、自治振興協議会、行政区長会議等の説明を経て、一月三十日から三

日間の日程で町内四力所において「我が町再生町民懇談会」を開催し、沼田町再生への趣旨をご理解いただきまし

た。
平成十七年度の施策の執行にあたりましては、本年度を自立元年と位置づけ、町民の皆様にとつて真に必要なかつ新たな展望と活路を見出す事業を選択し、効率的な実行性のある行財政運営を図っていきます。

極めて厳しい行財政下ではありますが、町政運営に望むにあたり、長期的な展望に立ち、行財政改革を積極的に推進し、我が町再生のための基本理念であります「住民との

住民参加で進めるまちづくり

再生プラン実施 広域連携も視野に

市町村合併につきましては一市四町（深川市、北竜町、妹背牛町、秩父別町、幌加内町）で構成する合併協議会が一月二十五日、「合併に対して住民意識が熟していない」と判断し、三月三十一日をも

って解散しました。
沼田町は「我が町再生プラン」に基づいて、まちづくり



協働で進めるまちづくり」を大きく掲げ、住民の皆さんと対話と協調を重ねながら再生する沼田町を目指し全力で取り組み決意です。

以下、各般の項目についてその概要を申し上げます。

を推進し、今後は生き残りをかけ近隣地域との一体感を育むことができる事業を中心に広域連合などの検討を加え、更に行政の効率化を目指し努力していきます。

また、道州制に向けた道から市町村への事務・権限移譲方針に対しては、住民に最も身近な市町村が行政サービスの中心的な役割を担い、事務の内容や性質等から市町村が担うことが適さないものを道や国が担うという補完性の原

理を基本とする本来あるべき住民自治の確立を強く求め、財政的、人的支援を得ながら各自自治体を持つ有能な人材を共有し、現状を踏まえ、近隣の自治体と共に英知をしばりながら新たな協力関係を構築し、広域連携を強力に進める連合自治体構想をはじめ実行可能な仕組み、組織を模索していきます。

行財政改革の推進 まちづくり条例の制定

行政改革の推進につきましては、これまでも沼田町行政改革大綱 に基づき毎年、行政改革推進本部で検討、協議しながら実施していますが、更に社会や経済情勢の変化を踏まえ、次の項目について積極的に取り組んでいきます。1 行政組織に関する見直し

2 税及び公共料金等に関する

こと
3 行政サービスに関すること
4 民間への委託、移管を進める取組み

5 広域連携を検討する事業等
また、各種手数料については、近隣市町の状況をみながら各証明書等に関する手数料について実態を調査したところ、本町においては住民票等の手数料が低額で設定されていたことから、検討の結果、近隣市町の水準まで増額することとして沼田町手数料条例の一部を改正しました。

地方分権の流れと三位一体改革の大変厳しい財政状況の中、これまでの行政運営を行政と住民に相互連携へと転換していくことが必要不可欠となつてきています。

町政運営の指針として先に住民説明を行いました「我が町再生プラン」の基本理念である「住民との協働で進めるまちづくり」を推進するためには、住民と行政がそれぞれの役割と権利、責任を明確にし、住民の参画を確かなものにする必要があります。

このことから、新年度において、まちづくりに関する町民共通のルールともいえるべき「まちづくり基本条例」の策定を進めていきます。



なお、策定にあたっては住民の意見が十分反映されるよう努めてまいりたいと考えております。

また、沼田町自治振興協議会の果たす役割も益々重要と思われ、今後、その機能を強化充実していくための方策を自らも検討をいただき、共に協議していきます。

地域情報化は、地方公共団体において情報通信技術を利用した質の高い行政サービスを提供していくことであり、町のホームページの充実などITによる住民の利便性の向上とコミュニケーションを重視し、行政運営の費用対効果を考え具体的な方策を検討していきます。



豊かで潤いのある農業の振興

農業諸対策の制度改正を要請

農業を取り巻く情勢は、農産物価格の急激な下落により農業所得が大幅に低下し、加えて、米消費の減少傾向、景気停滞などにより一段と厳しい状況に直面しています。

特に米主産地の本町においては、全国的に2年連続の不作にもかかわらず、政府備蓄米の放出、流通在庫の荷余りなどの要因から生産費用を下

回る米価となり、制度化された稲作所得基盤確保対策・担い手経営安定対策をも発動が見送られ、再生産が困難な状況にあります。

今後においては、先行きの不安から離農者の続出、遊休農地の発生などが危惧されるところですが、本町の基幹産業である農業の生き残りをはけ、担い手経営安定対策をはじめとする諸制度の改正や直接所得補償制度の確立と早期実現に向け、関係機関団体の協力をいただきながら強力に要請していきます。

なお、再生産に向けた支援対策として、水稻種子代の一部助成を十六年度補正予算にて執行しました。

コメ制度改正で市場原理の導入が進み、需要が高まらなければ作付規模の縮小を迫られ、道外の有数銘柄米などに比べ道産米は厳しい環境にあり、今後においても道産米の生産拡大の取組みは極めて重要です。

安全安心な良質米 売れるコメ作り

一方で、より安心安全で良

食味米の「売れるコメ作り」が求められています。このことから農業者自ら「コメ作り検討委員会」を立ち上げ、減農薬の取組みとして使用する農薬を統一し、散布回数半減や空中防除から地上防除に転換することを取り進めており、この初期投資の一部助成として、「ラジコンヘリ導入事業」を支援する予算を計上しました。

また、効率的農地の利用促進、低コスト化を目指す「農業生産組織育成支援事業」、次世代農業を支える担い手の育成確保のため「農業実習生受け入れ事業」を継続重点事業として予算化しています。

その他計上しました農業対策費の予算の執行にあたっては創意工夫により最大の効果が発揮されるよう鋭意努力していきます。

農産加工場と牧場 健全経営の努力を

町農産加工場につきましては、加工委託の減少や製品販売高の幾分の減少から総売上高の現状維持には厳しい状況にあります。主力商品のトマトジュースの販路拡大を図り、経費節減などを主眼に健全経営に向け努力していきます。

五カ山牧場については、起償償還のピークとなることから優良血統素牛の購入、肥育により販売収入の増大と可能

活力に満ちた商工観光の振興

TMO計画策定を支援 駅前再開発の方向性を

中心市街地の活性化を自ら考え、主体的に取り組もうとする組織として設立されたTMO（タウンマネージメント機関）につきましては、昨年からの実施されているポイントカード事業が順調に推移し、町民の間にも着実に定着してきている状況です。

新年度は、これに加えて特産品販売を通じ、沼田町を広くPRしようとする沼田町特産品販売促進事業（通称「沼田友の会」）や道道の改良事業に併せて計画している「駅前再開発」の方向性や内容等を明らかにするためのTMO計画策定事業が予定されており、町としても地域の発展につながる意義ある取組みとして計画策定に要する費用を支援していきたいと考え予算を計上しました。

なお、「駅前再開発」につ

な限りの経費節減に努め、一般会計負担を最小限に留めるべき経営努力していきます。



きましては、将来の商店街や市街地形成にも絡む重要な事業として理解しており、事業の規模や内容等について商工会やTMOとも連携を図りながら慎重に取り進めていきたいと考えています。

また、例年行なっています「ふるさとクーポン券」の発行や商工青年部による「いいの広場開設事業」について引続き支援をしていきます。



体験型観光と冬季イベントの構築を

観光事業につきましては、夜高あんどん祭り、ほたる祭り、明日萌等のPRに努めるほか、昨年からの準備を進めております体験型観光の構築に向けた取組みを更に進めていきます。

また、新たな冬季イベントとして先頃「冬のほたる」を実施したところですが、新年度においては、今回の経験も踏まえ更に工夫を重ねながら「雪と共生するまち」にふさわしい事業として、町内外から注目をいただけるような個性的なイベントに発展させて

企業誘致と行刑施設誘致運動の推進

いきたいと考えています。

企業誘致につきましては、日本パッケージシステム株式会社の北海道工場が二月十六日に竣工し、本格的な生産が開始されたところです。製品である盗難防止シールや自動識別タグ（ICタグ）は、今後大きく需要が見込まれるものであり、工場の規模も更に拡大することが期待されることから、町としても事業が円滑に運営されるよう出来る限りの支援をしていきます。

また、昨年の七月末をもつて撤退しました井原水産株式会社沼田工場につきましてはその後、会社側においても新たな取組みを模索されたようですが、結果的に具体化は難しいとの回答があったことから、町として施設全ての取壊しを申し入れたところ、井原水産側もこれを了解し、早い時期に着手いただける見通しとなっています。

企業誘致につきましては、今年度も道内外の企業に対する意向調査や各方面からの情報をもとにした企業訪問活動を積極的に展開するなどとして企業誘致の実現に努力していきます。

なお、平成十三年度の東海アルミ箔株式会社等の撤退表明に際して設置した緊急雇用等対策本部につきましては、未だ十分な成果を残せないままではありますが、日本パッケージシステム株式会社北海道工場の竣工をもってこれを廃止し、以後は通常業務の中で対処していきたいと考えています。

行刑施設誘致運動につきましては、平成十六年度に予定されている候補地（一箇所）の選定については、国の作業が遅れており、未だ具体的な動きが見えない状況です。近隣において新たに名乗りを上げる自治体が出るなど、誘致活動は熾烈を極めて来ておりますが、結論が出されるまで



の間、誘致期成会とも連携を図りながら法務省をはじめとする関係方面への働きかけを継続していきます。

なお、仮に十六年度において実現に至らなかったとしても、行刑施設の収容過剰問題は依然として深刻な状況にあることから、誘致活動については今後も引き続き推進していく所存でありますのでご理解とご協力をお願いします。

雪山センター早期実現と産業振興を

雪山センタープロジェクトにつきましては、本格的な事業実施に向けた最終段階として昨年、小規模な実証実験と基本設計を行なったところで

す。

新年度においては、予定地（五ヶ山地区）の地盤整備に国から支援がいただける見通しとなっており、その作業の進捗状況を見ながら施設整備の具体化を図っていきたいと考えています。

また、従来から進めている食糧貯蔵流通基地構想の実現に向けた具体的な提案と併せて、雪山センターの利用面についての検討を進めると共に国、道等の支援をいただくための要請活動も継続し、プロ



ジェクトの早期実現を目指していきます。

産業振興等を目的にこれまで実施してきた「個性ある地域づくり事業」、「新産業サポート事業」、「二十一世紀チャレンジ農業支援事業」につきましては、新たに「二十一世紀ふるさと活性化支援事業」として制度の充実を図ったところですが、この事業によって地域の活性化や経済活動の発展を目指した個性的で発想豊かな取組みが誘発され、活力ある地域づくりが推進されるよう期待をしています。

ふるさとづくり 寄付条例を制定

沼田町には「ほたる」「あんどん」「化石」「明日萌」「雪利用」など、他では多く見られない個性的な取り組みがあり、その内容や価値については道内外の各方面から高い評価をいただいています。

今後、これら資源や取り組み等を守り育てるためには、町民のみならず広く町外の人々にも何らかの形で関わりを持つていただき、必要とする財源の確保と共に多様な人々の参加によって個性あふれるふるさとづくりが進むものと考え、新たに「沼田町ふるさと



づくり寄付条例」を制定しました。

ほろしん温泉ほたる館 経営の意識改革を

平成五年の開業から十二周年を迎える「ほろしん温泉ほたる館」につきましては、経営の向上を図るべく白樺館に開設いたしました軽食コーナー「明日萌」が、特産手打ちソバの販売を中心に大勢の利用者から好評を得ており、また、昨年から取り入れました足裏マッサージは、温泉利用者の集客につながるサービスとして期待しているところで

一方、経費の削減、収支の改善に努め、増収につなぐべく町職員の協力を得て、多方面にわたり営業活動に取り組んできましたが、販売額の減少に歯止めがかからず、昨年に引きつづき、販売額が四億円を大幅に割り込む厳しい状況となっています。

今後、ほたる館の経営につきましましては、更なる経費の削減を図り、経営に対する社員の意識改革に努めると共に新設されるパークゴルフ場をはじめ周辺施設の有効活用を図りながら、効果的に収益につながる事業等を行い、集客力

の強化を図っていきます。

なお、委託していた経営診断につきましましては、その報告書ができましたので今後の運営に活用していきます。

また、白樺館の利用方法と

やさしさ満ちた地域づくり

高齢者の積極的な 社会参加を推進

本町の高齢化率も三十一%を超え、非常に高い率（全道で四十一番目）となっており、再生プランの計画最終年である平成二十二年には、三四・



高年齢社会にあつて、高齢者自身が社会における役割を見いだし、生きがいをもつて積極的に社会参加すること、また、高齢者が持つ豊かな知識や経験を生かした社会参加活動ができる社会の構築が重要です。

高齢者の方にとって「住みやすいまち」となるためには、町の福祉施策の充実はもちろんですが、高齢者を含め地域の皆さんが自ら考え、自らできることを実行し、地域で支え合うことが必要であることから、本年度において関係機関・団体から構成する「高齢者社会参加推進ネットワーク会議（仮称）」において検討を行ないます。

閉鎖をしています陶芸館につきましましては、検討委員会からの報告を参考に、陶芸家への無償貸貸を含め陶芸以外の施設利用も視野に入れ検討していきます。

次に「再生プラン」でも説明をしました。長寿祝金の支給につきましては、本年度より満七十七歳、満八十八歳及び満一〇〇歳に限定して交付することとし、関係条例を改正しました。

また、高齢者及び身障者に対する「ほろしん温泉優待事業」につきましても、本年度から「ほたる館事業による特別料金」となることから廃止することとしたのでご理解をお願いします。

パワースタイルで 介護予防、改善を

介護予防につきましては、十六年度から実施した高齢者の「パワースタイル」事業は、対象者を介護保険における軽度認定者（要支援・要介護1・2）を中心に実施し、参加者それぞれに悪化予防と改善に効果があったと事業評価をしているところであります。

本年度の事業の実施にあたっては、事業実施体制の充実強化を図り、虚弱高齢者の活動性を向上させ社会参加に高めるため、対象者の状態を検証し、必要性の高い高齢者に対し、より効果的な事業の推進に努めてまいります。

また、現在進められている介護保険制度の見直しにおいて、制度全体を「予防重視型システム」への転換を中心とした改正内容が進められており、これらに適切に対応するための事業再編成と体制整備を図ってまいります。

健康教育事業の充実・循環器健診は有料に

健康の推進につきましては病気の早期発見と予防、健康の保持増進を図るための各種健診の積極的な受診勧奨や保健師、栄養士による健康栄養相談等を実施し、生活習慣病の予防と健康意識の向上に努

めます。

また、子供の心身ともに健全やかな成長と母親が安心して育児をすることができるよう「訪問活動」や「マタニティクラブ」「すくすく教室」等の健康教育事業の充実に努めていきます。

なお、本年度から総合健診における循環器健診について一〇〇〇円の一部負担金を徴収し実施することになりますのでご理解をお願いします。

地域医療の重要な役割を担う沼田厚生病院に対しては、現在使用している超音波診断装置の診断機能の向上を図るため、広範囲な検査が可能な機器への更新を行なうための助成を予算計上しました。

サポートセンター設立 学童保育条例制定

また、急速な少子化の進行は、子供の自主性や社会性が育ちにくくなること、生産年齢人口の減少等により経済や地域社会の活力が低下することなど、将来に広く深刻な影響を与えることが懸念されています。

少子化の背景にはいろいろな要因があり、また、家庭や地域における子育て支援力の低下から、子育て不安の増大



や児童虐待など子供の成長に影響を及ぼしています。

本町には現在、沼田保育園と併設した子育て支援センターが設置されています。本センターが従来の役割機能に加え、地域での子育て支援のサポート機能を併せ持つことにより、行政が対応できないサービスの提供や幅広く子育て支援が展開できることから、道の補助を受け「ファミリースポーツセンター」設立とシステムづくりに係る経費を予算計上しました。

本事業の展開によって地域から信頼される沼田保育園として保育園の充実が図られ、平成二十年度以降における幼保一元化に向けた取組みが前進していくと考えています。

また、平成十六年十二月三日に公布された改正児童福祉法によって、本年四月一日から子供のあらゆる相談を受ける相談窓口の設置が義務付けられており、これに適切に対応できるよう取り組んでいきます。

住みやすい快適な環境づくり 広域農道が開通 協働でまちづくり

建設事業予算については、今後更に町財政が厳しさを増すことが予想されますが、第4次総合計画の着実な実施と建設事業に対する雇用の確保及び地域経済に与える影響を考慮し、工事量の確保に最大限の努力を払っています。

道路事業につきましては、平成十二年度より進めている東予幹線の改良工事を完了するための所要額及び口美葉牛幹線の改良工事を促進することとして所要額を予算計上しています。

次に、札幌土木現業所において平成四年度より進めていた沼田奔川の河川改修工事が完了する予定となっています。

象に保護者の皆さんが安心して働けるよう、指導員の指導管理下で事故防止と健全育成に努めながら実施している学童保育（子ども館）については、今年度より運営経費の一部負担をいただきたく、沼田町学童保育所設置条例を制定しましたのでご理解をお願いいたします。

ので、整備促進期成会と相談のうえ、完成式典を開催することとしています。

また、沼田奔川支流の治水対策として引き続き砂防工事の促進を要請していきます。次に、道営事業につきまし



では、今年度をもって広域農道北空知地区をはじめ、三事業全てが完了する予定となっており、そのための所要額を予算計上しています。

特に広域農道については、昨年公募により選定された本町高穂地区と秩父別町共栄地区を結ぶ「穂栄橋」の開通が八月の予定となっており、秩父別町と相談のうえ、開通式典を開催します。

住民と協働で進めるまちづくりとして、昨年実施いたしました明日萌街道の景観保存ボランティアを引き続き実施するとともに、比較的規模の小さい公園の管理を地域の皆さんの協力を得ながら行政と協働で進める地域づくりとして実施したく、行政区と協議を進めていきます。

シルバータウン構想策定 萌の丘を花の名勝地に

また、住民の高齢化が今後もますます進む中で、高齢者が安心と快適を実感できるような住環境を備えた「シルバータウン」構想を策定するための所要額を予算計上しています。

更に、空知支庁が水環境整備事業として進めていたキャンプ場及びパークゴルフ場の

整備が完了したことから、早期のオープンを目標に炊事場等の附帯施設の整備を行うこととして所要額を予算計上しています。

また、長年進めておりました幌新温泉地区の整備がパークゴルフ場の完成をもって終了することから、この地区を「幌新しいの森公園」と位置付けたく、関連条例の改正と併せてパークゴルフ場及びオートキャンプ場の使用料の改定をする条例を制定しました。

次に、萌の丘の整備につきましては、昨年実施した整備基本計画に基づき、ルビナスの植栽面積を拡大するとともに、引き続き地力回復のための土壌改良及び緑肥作物を施



用することとして所要額を予算計上しています。

また、北海道が観光客の減少に歯止めをかけるため、花による観光振興策として計画している「花の名勝地」の登録を得られるよう努力していきます。

次に、町民パークゴルフ場につきましては、昨年大勢の方々の利用をいただきましたが、引き続き安全で快適なコース整備に努めるとともに、夜間の利用増を図るため照明灯を増設することとして所要額を予算計上しています。

定住促進事業を継続実施 共成活性化センター建設

定住促進対策につきましては、住宅の新築や融雪設備の設置等に対する住宅助成措置

を継続するほか、団塊の世代の方々が二〇〇七年以降に退職を迎えることを踏まえ、こうした方々に対し本町への移住を働きかけるための情報提供活動等も展開していきたいと考えています。

また、農村の活性化と生活環境の整備を目的に地域拠点施設として平成五年に恵比島地区、平成十二年に北竜地区にそれぞれ地区公民館に変わり活性化センターを建設し、地域農村の活性化とコミュニティ活動の場として利用されていますが、現在の共成地区館は、昭和四〇年に建設されたもので老朽化も著しいため近代農業が進む中で地域に即応した活動の拠点として、旧農協共成支所跡地に共成地区活性化センターを建設すべく予算を計上しています。

安心、安全なまちづくり

交通事故死ゼロ二五〇〇 日めざして運動推進

昨年、道内の交通死亡事故死者数は、前年比四人減の三八七人となり、四年連続で交通事故死が減少しましたが、残念ながら十三年連続して全

国ワーストワンという結果になりました。

本町は、町民の皆様をはじめ沼田警察署、沼田町交通安全協会等の関係機関・団体の努力の結果、昨年十二月十八日をもって「交通事故死ゼロ二〇〇〇日」を達成することができました。



今後、新たな目標を「二五〇〇日達成」として、町民一人ひとりが人命を尊重し、自ら進んで交通安全運動に取組む意識の高揚を図るため関係機関・団体と連携した運動の推進に努めていきます。

沼田自動車学校の運営につきましては、近隣市町の人口減や少子化の影響から免許取得希望者が年々減少しているのが現状です。加えて、各自動車学校間での教習生確保競争が展開される中、今後更に教習生の減少が予測されます



が、一層の経費節減を図り生徒の確保に努め、経営の安定化を図っていきます。

自主防犯パトロール推進 防災体制の整備強化

昨年の全道における刑法犯認知件数は前年に比べやや減少し、増加傾向に一応の歯止めがかかったものの、強盗事件等が増加するなど依然として深刻な状況にあります。こうした事件・犯罪は、沼田警察署管内においても発生しており、都市ばかりではなく地方においても増加傾向にあり、地域での防犯運動推進は重要性を増しています。近年、地域住民による自主

防犯パトロール等の取組みが道内各地で広がっており、犯罪防止に大きな成果をあげていることから本町においても防犯団体の協力を得て、車両に青色回転等を設置して地域の巡回啓発を行なう「青色防犯パトロール」を実施することとして準備を進めています。

こうした活動を通して「安全で、安心して暮らせる地域づくり」のため、沼田警察署をはじめ関係団体と連携しながら防犯運動の推進に努めていきます。

更に、地域防災につきましては、沼田消防団と密接な連携を取り、町民の防火意識の高揚と消防活動や救急救助体制の充実を図り、町民の生命や財産を守り安全で明るい生活を送れる消防、防災体制の整備強化に努めていきます。

二十一世紀に生きる人づくり

住民参加型「はばたく沼田」支援事業」を設置

まちづくりの基本は人づくりであり、豊かな心を持ち、生命を尊重し、環境の変化に柔軟に対応できる資質や能力を身に付けた人を育むことが社会に課せられた使命です。そのため、新たに「はばたく沼田」こ支援事業」を設け、将来を担う子どもたちの学習や生活環境等の充実を図っていきます。

なお、当事業については住民からの提案を募り、別に設ける審査会において内容決定する住民参加型の事業として実施していきます。また、昨年、沼田町スポー

ツ少年団（野球チーム）ヤングイーグルスが地区大会で優勝し全道大会に駒を進め、ベスト8まで進出したことは明るいニュースでありました。



進学率向上で魅力ある沼田高校を

沼田高校の存続に関しましては、空知管内の学区が空知北学区と南学区の2学区に変更になり、志願状況の厳しい

中、多くの関係者に多大なご協力をいただきましたが、沼田高校への志願者は、二〇名を割り、極めて厳しい状況にあります。

今後におきましては、沼田高校が取り組んでいますコース制導入（特進コース、普通コース）を軸に、沼田高校教育振興協議会、沼田高校並びに関係機関と連携し、地域の高校受験生から認知される魅力ある高校を目指し努力していきます。

なお、沼高生の進学率向上の支援として派遣講師の予算を計上しています。

各施設、特別会計・事業会計

養護老人ホーム特別会計

養護老人ホーム和風園につきましては、施設の全面改修も終了し、今では一人一部屋でゆったりとしたスペースの中で安心して生活していただいています。

これからも入園者に親しまれる施設づくり、そして入園者に喜んでいただける処遇に努めていきます。

特別養護老人ホーム特別会計

平成十二年四月に導入された介護保険制度は、施行五年後の制度の見直しにより介護予防サービスが重視されることとが予想されていたため、昨年5月に理学療法士を採用し既に施設利用者に対しリハビリ業務を取り入れ、利用者の健康管理の一端を担うことを目的として実施しています。これから利用者並びに家族が求める施設を目指し、適



国民健康保険 特別会計

切な介護サービスを提供できるよう質の向上及び健全運営に努めていきます。

国保財政は、構造的な要因に加え、長引く景気の低迷等の影響等から厳しい運営状況となっております。

国保制度の改正等による医療費の動向等を充分に考慮した中で対前年比約四％増とな

る予算編成しました。
医療費が増加傾向にあり、疾病予防の保健事業による健康づくりや保健管理指導によって医療費の適正化に努めていきます。

介護保険特別会計

介護保険制度も第二期目

(平成十五年度から十七年度)の最終年となりますが、本町の高齢化率が三二％に達しており今後、保険給付費の増加も予想されることから、第二期目の保険料推計における標準給付費見込額をもつて予算編成を行いました。

今後においても利用者の状態や希望に応じた適切なサービスの提供等に努め、円滑な運営に当たっていきます。

また、平成十八年四月からの介護保険制度改正に向けて今後、その概要が明確となってくることから、改正内容に対し適切な対応に努めていきます。

老人保健特別会計

平成十四年十月から、老人保健の対象年齢が段階的に引き上げられていることから受給者が減少、これに伴い老人

医療費も減少となることが見込まれ、支出総額で対前年比8・3％マイナスによる予算計上をしました。
この財源については、公費負担割合が平成十八年度まで段階的に引き上げられることを考慮し、収支の均衡を図っています。

痴呆性老人 グループホーム

グループホーム「なごみ」は、入所されている利用者の高齢と重度化に伴い、利用者の尊厳を重視し、個々のニーズに合わせた個別処遇に努め、家庭的で穏やかな日常生活を過ごしていただけるようサービスの質の向上に努め、施設運営の安定を図ります。

公共下水道 事業会計

下水道は、平成二年の供用開始以来、地域住民の理解のもと「快適で文化的な生活」の実現に大きく寄与してきました。しかしながら供用からすでに十五年が経過し、浄化センターの機器の老朽化が進んでいることから、今後も時代に即応した効率的で安定的

な維持管理を行うため、機械や電気設備の改築更新計画を策定することとしています。

また下水汚泥についても、供用当初より窒素分を多量に含んだ有効な有機肥料として堆肥化を行い、農家に還元してきたところですが、より扱いやすい高品質な肥料として利用いただくため、堆肥盤に上屋を設置することとして所要額を予算計上しています。

個別排水処理施設につきましては、平成十六年度末で一五三基(計画予定の五八％)の設置を終えたましたが、引き続き農村地域の住環境改善のため、地域住民に必要性をご理解いただき普及促進に努めていくこととして、八基分の所要額を予算計上しています。

また、再生プランでも報告しましたが、平成十八年度からの下水道使用料及び個別排水処理施設使用料の改定に向けた見直し作業に着手することとしています。

水道事業会計

水道事業は、住民生活を支える重要なライフラインとして、「安全」で「安定的」な水道水の供給のため、計画的に老朽管の改修を進めてきまし



たが、引き続き、高穂西支線外一路線の配水管改修工事及び一般国道二七五号高穂歩道設置工事等、他事業関連に伴う受託工事として三件の移設工事費用を予算計上しています。

また、平成十八年度に企業団が受水費単価の改定を予定していることから、企業団とも調整を図りながら水道料金の改定に向けた作業を進めていきます。



沼田の子どもたちが夢と希望を持てる

教育行政を

平成17年度教育行政執行方針
沼田町教育長 松田 剛
Katashi Matsuda



昨 今「ゆとり教育」が死

語になりつつある今日
において、平成十四年
度からスタートした学校週五
日制は、子どもたちに「ゆと
り」を持たせ、主体的に使え
る時間を増やし学校、家庭、
地域社会がお互いに連携し、

子どもたちに社会活動や自然
に触れさせ、たくましく生き
るための健康や体力など「生
きる力」を育もうとするもの
です。

しかし、子どもたちを取り
巻く環境の変化は著しく、青
少年による非行の増加、低年
齢化、子どもたちが凶悪な犯
罪に関わったり、巻き込まれ
たり、児童の虐待等様々な歪
が社会問題として起きていま
す。

また、学校におけるいじめ
や不登校等の現状を踏まえ、
今一度、家庭、学校、地域社
会が一体となつて沼田っこ
を豊かな人間性を持った児童
生徒につちかうことが大切で
あると痛感しています。

教育委員会としましては、
このような課題を踏まえ重点
をおきながら生涯教育を推進
していきます。

家庭教育の活性化

家庭教育は、すべての教育
の出发点であります。都市
化、核家族化、少子化、地域
における地縁的なつながりの
希薄化に伴い、育児について
の不安や悩みの広がり、子ど
もへの接し方、子育ての方法
が分からない親の増加など、
家庭教育の教育力の低下が指摘さ
れています。

特に、急増している児童虐
待や思春期の子どもへの関わ
り方が問題になっている現状
を踏まえ、今年度は関係機関
や団体、地域社会との連携を
図り家庭教育の活性化のため
の事業の立案を図っていきま
す。

一人ひとりの親が家庭を見
つめ直し、それぞれ自信を持



子どもの体力向上

つて子育てに取組んでいく契機として、家庭教育を支援するため子育てサポーターの再発掘と資質の向上を図り、リーダーの養成、親等に対する様々な機会を活用した家庭教育に関する学習機会の提供や父親の家庭教育への参加も訴えていきます。

健やかな体は人間の心の発達成長を支え、人として創造的な活動をするためには不可欠なものであり、人が知性を磨き、知力を働かせて活動していく源です。

また、体力は生活する上で

力、知力、気力が一体となつて人としての活動が行われていくことが大切であり、体力は「生きる力」の極めて重要な要素となるものです。

将来を担う子どもの健やかな体を育み、創造性豊かな人間性に富んだ人材を育成していくためには、乳幼児期から青年期にわたって、スポーツのみならず、自然体験活動、屋内外での遊びを含めた広い意味での身体を動かす習慣を身につけさせることや、食生活や睡眠など日常生活習慣をより望ましいものにしていくことが必要です。

今一度、積極的に家庭、学校、地域社会と縦・横の連携を図り推進していきます。

子どもの読書習慣の推進

今日、テレビ、ビデオ、インターネットなどの様々な情報メディアの発達や子どもの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの「活字離れ」が指摘されています。

児童生徒の一ヶ月の平均読書冊数は、全国平均で見ると小学生が七・五冊、中学生が二・五冊、高校生一・五冊。また、一冊も読まなかった子

どもたちの割合は、小学生が九%、中学生三三%、高校生五六%となっており、中学生以降、極端に読書量が減少している現状であり、本町においても同様な傾向がみられます。

読書活動は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造性を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであり、社会全体でその推進を図っていくことは極めて重要であることから、今年度は次について重点をおきながら推進していきます。

- ・家庭・地域・学校を通じ、子どもが読書に親しむ機会の提供
- ・家庭教育に関する学習機会等を通じた親に対する読書の重要性の理解を促進
- ・図書館等における子どもの読書活動の推進
- ・学校における学習活動を通じた読書習慣の確立と推進
- ・図書館の充実
- ・図書館の環境整備
- ・蔵書の充実と広報活動

高齢者の生きがいづくり

我が町再生プランでは本町

の高齢者人口（六五歳以上）の見通しとして、平成十七年が三一・六%（一三〇八人）、平成二十二年予想では三四・三%（一三一人）になることが想定されおり、高齢者の生きがいづくりが更に必要となつてきています。このことを踏まえ、長年の経験や技術を提供していただくことにより、高齢者の社会参加を促進し、生きがいある豊かな社会の構築を目指します。

そのために縦・横の連携を取り、高齢者の立場に立つて健康や生きがいづくりを推進していきます。

また、高齢化に対する高齢者の支援も必要になつてきていますので、いきいき大学や老人クラブなどを通じての仲



幼稚園・学校教育

○幼稚園

- 町生涯教育目標に沿って、「友だちと生き生きと活動し、育ちあう子」を教育目標におき、園長を始め、教諭一丸となり、園児に対して健康で明るい子、仲良く遊ぶ子、美しい心の子、力いっぱい頑張る子を目標に保育活動を推進
- ・人材の有効活用（防犯・児童の交通安全他）
- ・高齢者同士のネットワーク
- ・世代間交流



進していきます。

併せて幼稚園と小学校のふれあい教育を推進していきますので、保護者や地域社会のご理解とご協力をお願いするとともに、若干の入園料の見直しをすべく条例改正をしています。

○小学校

幼稚園と同じく町生涯教育目標に沿い、意欲を持って進んで学習する子ども、豊かな心で互いに助け合う子ども、強くたくましくやりぬく子どもを育てることを教育目標におきます。

そのため校長以下教職員が一丸となるとともに保護者、地域と一体となった教育を目指し、中学校との授業交流を継続推進していきます。

○中学校

幼稚園・小学校同様に、町生涯教育目標に沿い「生きる力」と「豊かな心」の育成を目指し「確かな学力」に結びつく授業の展開を行い、保護者や地域から信頼され、より開かれた学校を目指します。そのため校長以下教職員が一丸となり教育を推進し、併せて沼田高校との公開授業、研究会等を継続推進していきます。

○学級編制について

平成十七年度当初における小・中学校及び幼稚園の学級編制は次のとおりです。

()内は特殊学級内数

区分	平成 1 7 年度当初			平成 1 6 年度当初		
	児童生徒数	学級数	教職員数	児童生徒数	学級数	教職員数
小学校	185(6)	9(3)	17	207(9)	9(3)	17
中学校	115(2)	6(2)	15	115(1)	5(1)	14
幼稚園	34	2	3	19	2	3
計	334(8)	17(5)	35	341(10)	16(3)	34

学校評議員について

平成十四年度より、小中学校に各三名の評議員が導入され四年目を迎えるところであり、一定の成果が上がっていると承知していますが、更に学校運営に対しより有効に活用されることを期待しているところです。

幼・小・中・高一貫連携教育

幼児、児童生徒の発達段階に応じて縦・横の連携が今後益々重要であり、その発達段階に応じて必要なことを確実に指導するためには相互の共通理解が必要不可欠です。各園・学校の教職員が研修や更に日常の交流を通じ、幼小のふれあい教育、小中における国語・算数等の教科を中心とした連携を更に強力に推進していきます。

沼田高校への支援

平成十七年度出願状況は、道立高校の通学区域が大幅に拡大され、空知管内にあつても五学区から二学区（空知北学区・空知南学区）となり、



高校の選択幅が広がったことにより、結果として定員の四〇名に対し、二〇名を切る結果となり、近年にない厳しい数字と受け止めています。募集に際して、全町的な危機感に立って、ご支援ご協力をいただきました関係機関や町民各位に心から感謝申し上げます。

今後におきまして、沼田高校が地域に根ざした特色ある学校（特進コース外）として、また魅力ある教育活動実践校として、入学者の確保が図られるよう沼田高校教育振興協議会を軸として、学校、関係機関と連携を深めながら支援していきますので、町民皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

社会教育について

少子化、高齢化が進む現状を十分踏まえたなかで、町民一人ひとりが豊かな人生を育み、潤いのある生活を創出することが望まれています。このことから社会教育の果たす役割が必要不可欠と考えられます。

学校、家庭、地域社会、関係機関等が連携し、社会の一員として「あいさつ運動」の奨励はもちろんですが、生涯学習総合センター（ゆめつく）を拠点とした生涯学習事業を前年度の反省評価を踏まえたなかで、一層の創意工夫を加えて推進していきます。



生涯学習センター 「ゆめつくる」について

開館四年目を迎え、本町における生涯学習の拠点として、また文化・教養の施設として多くの町民の皆様にご利用いただいています。

今後共多くの町民の声を反映させるよう施設の充実を図り、より身近な施設として気軽にご利用いただけるよう努力してまいります。

図書館におきましては、先に述べたように、利用者のニーズに応えるため蔵書の充実と貸し出しの利便を図り、一人でも多くの利用を促進するための広報活動をしていきます。



芸術文化について

日常生活に潤いをもたらすことに欠かすことができない一つに、芸術文化があると思われまますので、文化連盟を始めとする関係団体と二人三脚で町民の多くが芸術文化に触れる機会を提供すべく主催共催事業を実施していきます。

また、実行委員会が実施する町民芸術祭の後援等を行ってまいります。

併せて「ゆめつくる」を文化活動の場としております文化サークル等の助長も行っていくます。

貴重な文化財の保護継承につきましましては、先人からの貴重な文化財として次の世代に引き継ぐと共に、その活用を図っていきます。

化石館について

学術的に貴重な財産である化石類につきましましては、化石館を中心とした展示活動の継続はもちろんでありますが、特別展開催（春の企画展・夏の化石特別展・秋の企画展）を行い、学校や社会教育面での化石発掘体験事業も継続し新規観光客の誘致事業についてもほたる館と連携して実施



していきます。

また、化石クリーニング教育、レブリカ作成教育など学芸員を中心に継続、新規事業を積極的に展開し、「化石の町沼田」のイメージアップを図っていきます。

社会体育について

町民一人ひとりが心身と共に健康で活力あふれる豊かな生活を営むことが大切であり、「いつでも、どこでも、だれでも」が身近で手軽にスポーツやレクリエーションなどに親しむ機会や場を提供するための整備充実を図っていきます。

す。

以上、教育委員会といたしましては、心豊かな人間形成を目指す観点から、今一度原点に戻り、学校、家庭、地域社会が連携し、沼田の子ども達が夢と希望をもてる教育行政の推進に最善の努力をしていきます。

さらに、これらの活動を助長させるため、体育指導委員や民間有志指導者との連携を図り、体育協会を始めとする各種関係団体の支援に努めスポーツの振興を図ってまいります。社会体育事業全般について反省評価し、町民各位からの要望意見を取り入れ、創意工夫し学校、家庭、地域社会並びに関係機関等と連携し充実を図ってまいります。



の台所

年度予算]

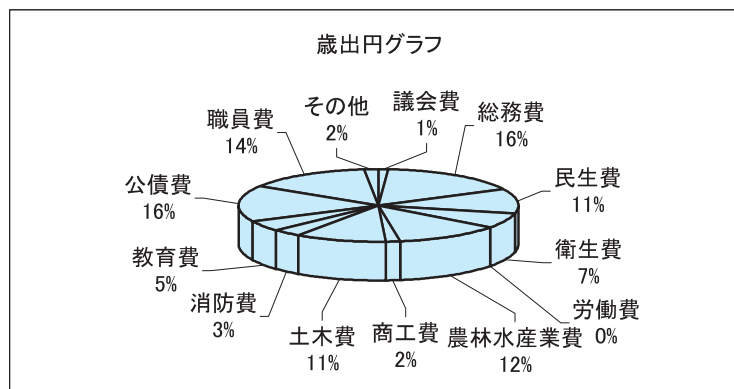
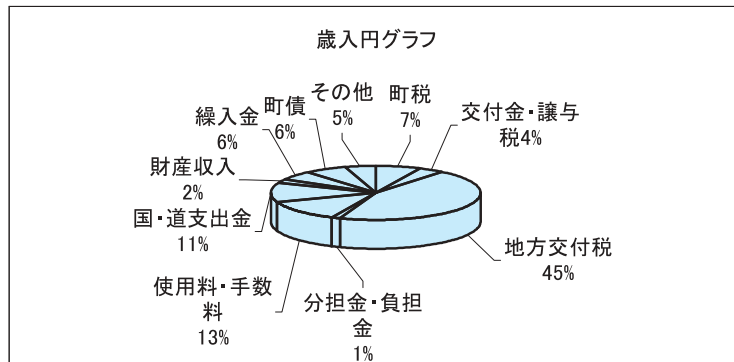
自立元年、一般会計45億円

我が町再生プラン」始動

削除効果で一般会計4%減

駅前再開発に調査設計費

一般会計・特別会計 総額 70億円



昨年、法定合併協議会に参加せず当面、自立していくことを選択した本町の自立元年の予算は、一般会計と特別会計を合わせて六十九億六千八百一十一万となり、今年度当初比一億二千五百六十一万円の減、増減率はマイナスイース・八%となりました。これまで町民に説明をしてきた「我が町再生プラン」が盛り込まれ、いよいよ同プランが動き出すことになりました。

一般会計予算総額は四十五億円で、十六年度の四十六億九千万円に対して一億九千万円、四・〇五%減となりました。今年度は多額な特殊経費がなかったことから、この減少は再生プランをはじめとする削減によるものです。減額要素をみると人件費が千三百一十万円、工事請負費五千四百五十二万円、再生プランによるもの千六百六十六万円、温泉管理運営委託経費が三千七百八十三万円です。

歳入は、町税が基幹産業の農業所得の伸び悩みなどのため三億一千二百七十九万円で同四百三十九万円減。地方交付税は二十億一千万円で、十六年度に低く見積もっていたことなどから予算上は一億一千万円増加しました。基金は収支均衡のため財政調整基金

に一億五千万円、特定目的基金九千八百五十三万円の合計二億四千八百五十三万円を繰り入れることとしています。これにより、十七年度の基金残高見込みは二十億三千四百二十三万円となる予定です。

十七年度から二十二年度までの我が町再生プランの影響は、歳入で総務手数料の改定や新規の学童保育の有料化、各種視察受け入れ負担金の導入などから二百二十七万円、歳出では、グリーンパートナー奨励事業補助金、ふるさとクーポン発行助成金、敬老祝金の廃止や除排雪経費などで千六百六十六万円削減されています。国庫補助負担金の一般財源化に伴う影響は八千二百七十七万円で、内訳は養護老人ホーム等保護費負担金七千六百六十六万円、在宅福祉事業補助金三百四十九万円などです。

主な事業としては、十八年度に着工を予定している駅前再開発事業が道の切替工事に伴い着手、二百三十万円を計上し駅前広場や同多目的広場整備の設計に取りかかります。また、老朽化している共成地区活性化センターは、五千万円を投じて新たに建設。施設には集会所と農産物加工ができる厨房などを整える予定です。供用開始から十五年

- ・土づくり推進事業 2,000千円
- ・堆肥盤設置推進事業 500千円
- ・雪中米PR販売事業 600千円
- ・ラジコンヘリ導入支援事業 新規] 10,000千円
- ・農地流動化支援事業 4,523千円
- ・農地流動円滑化推進事業 1,891千円
- ・農業生産組織育成支援事業 10,000千円
- ・農業実習生受入 2,000千円
- ・農地流動化基金積立 継続] 125,000千円
- ・農地流動円滑化推進事業 継続] 10,000千円
- ・雪利用による農産物商品化調査事業 1,699千円
- ・新山村振興事業 55,130千円
- ・道沿沼北地区農家負担軽減対策 3,309千円
- ・TMO運営費支援 継続] 6,350千円
- ・21世紀ふるさと活性化支援事業補助金 統合継続] 4,000千円
- ・ふるさとクーポン券発行助成 12,000千円
- ・[重点] 駅前再開発事業の推進 継続] 2,300千円
- ・明日萌駅舎等管理 4,131千円
- ・明日萌の里フォトコンテスト 500千円
- ・明日萌の里歩くスキー助成 継続] 600千円
- ・[重点] 萌の丘整備事業 継続] 5,000千円
- ・観光PR事業 継続] 2,800千円
- ・冬のイベント(冬のほたる)開催補助金 新規] 1,000千円
- ・継承事業補助金 5,750千円
- ・お祭り広場開設補助金 400千円
- ・[重点] 体験型観光の構築 継続] 704千円
- ・地域子育て支援センター運営委託 継続] 2,582千円
- ・一時保育事業委託 継続] 2,100千円
- ・認可保育所保育料の支援 継続] 3,340千円
- ・幼児ことばの教室運営費 継続] 1,645千円
- ・子育て支援対策費 894千円
- ・[重点] 地域子育て力強化事業 新規] 1,007千円
- ・[重点] はばたく沼田っ子支援事業 新規] 3,000千円
- ・高齢者筋力向上トレーニング事業 増強継続] 5,110千円
- ・社会福祉法人利用者負担軽減補助 1,659千円
- ・住環境整備費助成事業 継続] 1,600千円
- ・高齢者世帯等除雪費助成 単独] 900千円
- ・除雪サービス委託 単独] 2,644千円
- ・生活管理指導員派遣事業 1,464千円
- ・外出支援サービス事業 単独] 742千円
- ・生きがいディサービス事業 2,552千円
- ・[重点] 沼田厚生病院医療機器整備費補助 継続] 12,915千円
- ・[重点] 沼田厚生病院運営費補助 継続] 7,000千円
- ・[重点] 自衛隊施設の拡充、新たな部隊の誘致活動及び行刑施設、企業等の誘致活動2,842千円
- ・定住促進奨励金交付事業 10,000千円
- ・[重点] 住宅マスタープランの策定 新規] 3,000千円
- ・公営住宅住環境整備事業 継続] 2,170千円
- ・[重点] ふるさとづくり基金の創設 新規 資付積立金 1,000千円
- ・行財政改革の推進 見直し継続] ▲89,009千円
- ・各種融資資金利子補給事業 継続] 9,334千円
- ・基幹水利施設管理事業 継続] 61,441千円
- ・国営造成施設管理体制整備促進事業 継続] 36,573千円
- ・中山間地域等直接支払交付金 継続] 109,047千円
- ・地籍調査事業 継続] 41,701千円
- ・普通林道 幌新線 開設事業 補助継続] 29,769千円
- ・道路の維持工事 継続] 10,300千円
- ・街路灯塗装改修事業 継続] 1,190千円
- ・融雪溝維持管理事業 継続] 2,374千円
- ・東予幹線 凍雪害防止 継続] 60,000千円
- ・口美葉牛幹線 凍雪害防止 継続] 100,000千円
- ・幌新しいいの森公園パークゴルフ場整備事業 新規] 7,800千円
- ・町民パークゴルフ場整備事業 維持] 1,050千円
- ・農村公園野球場改修事業 維持] 4,700千円
- ・公園管理事業 維持] 33,695千円
- ・町民パークゴルフ場管理事業 維持] 8,977千円
- ・町営バス運行経費 11,042千円
- ・スクールバス運行経費 14,777千円
- ・沼田小学校グラウンド改修事業 新規] 5,429千円
- ・地域児童生徒学力向上派遣講師の採用 新規] 2,040千円
- ・共成地区活性化センター建設事業 新規] 50,000千円
- ・浄化センター機械・電気設備機能診断 19,000千円
- ・汚泥堆肥盤屋根新設工事 114,200千円
- ・公共污水枴新設 1,575千円
- ・個別排水処理施設整備事業 12,190千円
- ・上水道配水管新設・改修事業 5,045千円

沼田町

〔平成17〕

■歳入

科目	H17予算額	H16予算額	比較
町税	312,794	317,191	▲ 4,397
交付金・譲与税	175,300	147,300	28,000
地方交付税	2,010,000	1,900,000	110,000
分担金・負担金	58,524	55,015	3,509
使用料・手数料	573,446	639,439	▲ 65,993
国・道支出金	515,857	587,791	▲ 71,934
財産収入	107,952	109,458	▲ 1,506
繰入金	248,539	368,643	▲ 120,104
町債	288,700	349,000	▲ 60,300
その他	208,888	216,163	▲ 7,275
歳入合計	4,500,000	4,690,000	▲ 190,000

■歳出

科目	H17予算額	H16予算額	比較
議会費	47,846	50,282	▲ 2,436
総務費	734,556	828,315	▲ 93,759
民生費	500,129	569,232	▲ 69,103
衛生費	305,410	295,703	9,707
労働費	4,188	10,234	▲ 6,046
農林水産業費	549,891	561,776	▲ 11,885
商工費	73,346	73,840	▲ 494
土木費	474,621	542,302	▲ 67,681
消防費	146,680	145,329	1,351
教育費	217,901	200,356	17,545
公債費	720,169	685,605	34,564
職員費	651,684	663,611	▲ 11,927
その他	73,579	63,415	10,164
歳出合計	4,500,000	4,690,000	▲ 190,000

が経過した浄化センターも機械、電気設備機能の診断に千九百万円を計上しています。更新計画期間は十八、十九年度で、総事業費は五億円を見込んでいます。

農業関係では、新山村振興事業に五千五百十三万円を計上し、乾燥調整施設九基や無人ヘリコプター四機などの整備補助金に充てます。

観光面では、萌の丘整備事業のルビナス植栽などに五百万円、地域医療関係では厚生病院の超音波診断装置一式に千二百九十一万円などを計上しています。

このほか、本町最大のイベ

ント夜高あんどんまつりや化石、ホタルなど魅力ある財産を時代に引き継ぐため、町内外からの寄付金を募る「ふるさとづくり寄付金」を創設しました。

また、従来のまちづくり町民会議を発展的に継続させ、新たにまちづくり基本条例の草案などをつくることなどが盛り込まれており、厳しい予算ながら工夫して中身の濃い編成となっています。

平成 17 年度 主要施策要覧

～町民一人ひとりが主役のまちづくり～

豊かで潤いのある農業の振興について

農業実習生受入事業

事業経費 200万円

- ・都市住民との各種交流事業を通じて農業、農村の活性化を図るため、道外から、農業や農村に興味をもつ独身の女性を受け入れます。
- ・農作業体験研修や地元農業者と交流を通して農業、農村の素晴らしさを実感させ、地域の理解者となっていただくことを目的としています。(町・農協連携事業)



農業振興課 35 - 2114

土づくり推進事業

事業経費 200万円

- ・農業の基本である土づくりを推進し、病害虫に強い安定した農産物の生産を推進します。
- ・麦収穫跡地の緑肥作物(キカラシ)種子代の助成
- ・牛糞堆肥(畜産農家連携)搬入代金の助成(町・農協連携事業)



農業振興課 35 - 2114

ラジコンヘリ導入支援事業

事業経費 1,000万円

- ・環境に配慮した防除体制を確立するため、ラジコン防除ヘリ導入に対し、支援します。



農業振興課 35 - 2114

農業生産組織育成支援事業

事業経費 1,000万円

- ・低コスト化による農業経営の安定化と地域農業の新しいシステムを形成するため、水稻の収穫乾燥調整作業又は畑作物の播種・定植・収穫の協業化に伴いこれら作業に必要な機械の導入に要する経費及び、法人組織の設立経費を助成します。(町・農協連携事業)
- ・補助対象：2戸以上の農家で構成する組織
- ・対象経費：協業化により発生する機械整備費・法人設立に要する経費
- ・補助率：1/3・1/2以内

農業振興課 35 - 2114

沼田町農業まつり事業

事業経費 30万円

- ・地場産農畜産物のPRと消費拡大、地域のイメージに相応しい新たな食文化の創造、愛食運動の推進を目的とした農業イベントを開催し、活力ある沼田農業の構築を図ります。(町・農協連携事業)
- ・内容：農産物・加工品等の即売会、各種売店の設置、その他

農業振興課 35 - 2114

堆肥盤設置推進事業

事業経費 50万円

- ・生産者自らが地力の増進のために堆肥盤を設置する場合に設置費の一部を助成します。
- ・堆肥盤設置経費の1/2以内、50万円限度(町・農協連携事業)

農業振興課 35 - 2114

活 力 に 満 ち た 商 工 ・ 観 光 に つ い て

体験型観光の構築

事業経費 70万円

- ・化石やあんどん、ほたる、農業等本町に備わった各種素材を活用した体験型観光の構築を目指した取組みを進めます。
- ・パンフレットの作成及びPR活動
- ・指導体制、運営体制の確立
- ・モニターツアーの開催

地域開発課 35 - 2112

沼田IC～北竜ひまわりIC開通記念パークゴルフ大会

事業経費 5万円

- ・深川留萌自動車道沼田IC～北竜ひまわりIC間の開通を記念して、沼田町・北竜町のパークゴルフ場を会場とし、両町によるパークゴルフ大会を開催します。



建設課 35 - 2116

萌の丘整備事業

事業経費 500万円

- ・夏期の観光資源である萌の丘を、既存のルピナスとの調和を図りながら、花の咲く緑肥作物を植え、土壌改良を促進します。



建設課 35 - 2116

TMO運営費支援

事業経費 635万円

- ・沼田町TMOに活動運営補助金を交付します。

地域開発課 35 - 2112

21世紀ふるさと活性化支援事業

事業経費 400万円

- ・地域や産業の活性化を目指した新たな取組みに対し、補助金を交付します。

[地域の活性化に関する事業]

- ・イベント開催に関する事業
- ・人材育成に関する事業
- ・伝統、文化の保存に関する事業
- ・その他地域の活性化に資すると町長が特に認めた事業

[産業の活性化に関する事業]

- ・商品等開発に関する事業
- ・起業、創業に関する事業
- ・販路開拓に関する事業
- ・経営の高度化に関する事業

地域開発課 35 - 2112

駅前再開発事業の推進

事業経費 230万円

- ・駅前を通る道道の改良事業が着手された事に伴い、この工事に併せて駅前広場の整備を進めます。なお、工事については道道改良工事と歩調を合わせる事とし、実施は平成18年以降の見通しです。

- ・用地分筆登記
- ・設計業務委託

地域開発課 35 - 2112

ふるさとクーポン券発行助成

事業経費 1,200万円

- ・地元での消費拡大を目標に、商工会が行うプレミアムクーポン券事業に対し、今年も引き続き助成を行います。



地域開発課 35 - 2112

明日萌の里・ほたるの里歩くスキーの集い

事業経費 60万円

- ・毎年全道各地より500人近い参加者が集まり盛大に開催されています。当日は多数のボランティアにより運営され、正に沼田町を代表するイベントの一つになりました。今年度も実行委員会に対し補助金を交付します。



地域開発課 35 - 2112

明日萌街道景観保存ボランティア事業

事業経費 16万円

- ・明日萌街道景観保存会による、恵比島から幌新温泉の道路沿いに植えられている、1,300本の街路樹の冬囲い作業を支援します。

建設課 35 - 2116

冬季イベント（冬のほたる）の開催

事業経費 100万円

- ・昨年度初めて実施したところですが、今年度においてもその経験を踏まえ更に工夫を凝らしながら「雪と共生するまち」に相応しい冬季イベントとして発展するよう、引き続き実行委員会に対し補助をします。



地域開発課 35 - 2112

明日萌の里フォトコンテスト事業

事業経費 50万円

- ・毎年全道各地より150を超える作品が寄せられ、マニアの間にもすっかり定着しました。実施主体である観光協会に対し、今年度も補助金を交付します。



地域開発課 35 - 2112

やさしさに満ちた地域づくりについて

住環境整備費助成事業

事業経費 160万円

- ・ 目的：介護を要する高齢者・障害者の自立支援や介護負担軽減を目的として行う住宅改修に対して、助成金を交付します。
- ・ 助成内容：対象事業に要する経費の1/2（80万円限度額）



住民生活課 35 - 2120

高齢者世帯等除雪費助成事業

事業経費 90万円

- ・ 12月1日に居住している、高齢者等の世帯（生活形態上）のうち玄関前の除雪に関し冬期間を通じ業者委託している世帯へ除雪費用の一部を助成します。対象世帯は町民税 非課税の世帯のうち、次のいずれかに該当する世帯です。
 - 70歳以上の独居世帯
 - 世帯主が70歳以上、同居親族が65歳以上で構成されている世帯
- ・ 助成内容：支給額は委託業者・個人等へ支払った額の2分の1の現金を支給。（但し20,000円を限度）

住民生活課 35 - 2120

軽度生活援助事業

事業経費 270万円

- ・ 在宅の高齢者等で、自力での作業が困難と認められる方が、安心して自宅で暮らせるように日常生活の支援をします。
- ・ 除雪サービス事業
冬期間の生活道路の出入口を確保します。
利用者負担：2,000円/シーズン
- ・ 草刈り等軽易作業援助事業
月1回1時間を限度に自宅周りの手入れの援助を行います。
利用者負担：90円/月1回

住民生活課 35 - 2120

高齢者パワーリハビリテーション事業「元氣はつらつ教室」

事業経費 511万円

- ・ 虚弱高齢者や要介護高齢者の身体機能を高め、劣化・停滞した神経と筋力の協調性を回復し、筋力やバランス能力、動作性などの維持向上を図り、社会生活の拡大を支援します。
- ・ 方法：高齢者の動作性の改善に適している運動器具を使ったトレーニングを、週2回3ヶ月間継続します。理学療法士や保健師等専門職の指導の元で実施します。
- ・ 実施時期等詳細は、広報等でお知らせ致します。



住民生活課 35 - 2120

在宅介護サービス利用奨励手当支給事業

事業経費 48万円

- ・ 介護保険要介護認定の3～5の判定を受け、毎月1種類以上の居宅サービスを利用した方に月額5,000円を支給します。（但し、施設入所者、グループホーム等入所者は対象外です。）



住民生活課 35 - 2120

生活管理指導員派遣事業

事業経費 146万円

- ・ 介護保険認定審査会にて、「自立」と判定を受けた方を対象に要介護状態への進行を予防するため、生活管理指導員（ホームヘルパー）の派遣をします。（社会福祉協議会への委託事業）
- ・ 利用料：1時間あたり402円

住民生活課 35 - 2120

沼田厚生病院運営費補助

事業経費 700万円

- ・地域の医療機関として、町民の健康を守る
J A沼田厚生病院の運営を助成します。



住民生活課 35 - 2120

外出支援サービス事業

事業経費 74万円

- ・住民税非課税世帯の高齢者の居宅と医療機関間の定期的な移送を確保し高齢者の自立と生活の質の確保や介護者の負担軽減をし、在宅福祉の向上をはかります。
- ・利用対象者
要介護認定で「要介護2」以上の方と介護者1名まで
要介護認定を受けていない方で介護認定ソフトで「要介護2」以上の結果が出る方で地域ケア会議で必要と判断される方と介護者1名まで
- ・利用内容：医療機関への定期的な通院で片道30km以内
- ・利用回数：月に1往復分まで（翌月繰越しは不可）
- ・利用負担金：全費用（ハイヤー代）の1割の額（3ヵ月毎に町へ納付いただきます）



住民生活課 35 - 2120

生活習慣病予防事業

事業経費 1,790万円

- ・増え続ける生活習慣病に対し、保健師・栄養士による発症を未然に防ぐための知識の普及や、早期発見・治療のための健診体制を整えることで、その人らしく生活し続ける支援をします。
- ・内容：健康相談、健康教育、健康診査（総合健診、助成の旧総合健診、子宮・乳がん検診）など。
- ・時期：詳細は広報等でお知らせします。

住民生活課 35 - 2120

幼児インフルエンザ予防接種助成事業

事業経費 28万円

- ・感染しやすい幼児期の子供たちのインフルエンザ流行と罹患を予防するため、接種料金の助成を行います。
- ・内容：2回接種の内、1回目分を助成（詳細は秋頃お知らせします）



住民生活課 35 - 2120

生きがいサービス事業

事業経費 255万円

- ・介護認定審査会にて、「自立」と判定を受けた高齢者を対象に要介護状態への進行を予防するため、生活指導・日常動作訓練・その他のサービスを提供します。（社会福祉協議会への委託事業）
- ・利用者負担：240円/回 + 食材費450円/回



住民生活課 35 - 2120

沼田厚生病院医療機器整備費補助

事業経費 1,292万円

- ・沼田厚生病院の施設のうち、超音波診断装置の整備に必要な費用に対して助成をします。

住民生活課 35 - 2120

認可保育所保育料の支援

事業経費 334万円

- ・保育に欠ける児童の保護者を経済的に支援するために、国の基準保育料に対して30%分を町が負担して保育料を減額します。



住民生活課 35 - 2120

子育て支援対策費

事業経費 89万円

- ・就業前の6歳の乳幼児を対象に受給負担額（総医療費の1割または、初診時一部負担金）を助成（現金給付）します。



住民生活課 35 - 2115

地域子育て力強化事業

事業経費 101万円

- ・社会全体で少子化対策を推進する体制を整えるための事業を行います。
- ・方法：子育ての援助を必要とする人（依頼会員）と子育てのお手伝いができる人（援助会員）が登録して、相互に援助しあう仕組みを作ります。



住民生活課 35 - 2120

母子保健サービス事業

事業経費 182万円

- ・未来の担い手である子供やその親たちが、心身共に健やかに過ごせるため、保健師・栄養士を中心に、多岐にわたって支援します。
- ・内容：妊娠・乳幼児健診、マタニティクラブ、すくすく教室、歯科検診・フッ素塗布、学童栄養事業など



住民生活課 35 - 2120

地域子育て支援センター運営委託

事業経費 258万円

- ・少子化、核家族化などにより地域（近所）に育児に関する不安を相談したり、近所に一緒に遊ぶ子どもがいないなど様々な不安や悩みをもつ保護者の窓口となる地域子育て支援センターを沼田保育園に委託して開設しています。

住民生活課 35 - 2120

一時保育事業委託

事業経費 210万円

- ・専業主婦家庭等の育児疲れ解消や、保護者の急病など一時的な保育需要に対応するために、理由の如何を問わず、週3日、月14日以内の範囲で沼田保育園に委託して、保育を実施しています。



住民生活課 35 - 2120

住みやすい快適な環境づくりについて

共成地区活性化センター建設事業

事業経費 5,000万円

- ・共成地区に活性化センターを建設します。



教育委員会 35 - 2116

住民マスタープラン策定事業

事業経費 300万円

- ・今後の沼田町における市民意向等を踏まえた、住宅施設の基本目標及び基本方向、シルバータウン等を重点的に推進する施策の展開方針など、住宅行政の基本となる事項について定めるための調査検討を行います。

建設課 35 - 2116

上水道配水管新設事業

事業経費 410万円

- ・町道高穂西支線の、未設置であった箇所に配水管を新設します。
延長：200m 口径：50m/m
- ・道道達布石狩沼田停車線に設置されている配水管を更新します。
延長：127m 口径：50m/m



建設課 35 - 2116

下水道合併処理浄化槽設置事業

事業経費 1,370万円

- ・農村地域の住環境改善のため、水洗化を普及します。
- ・設置予定数：8基

建設課 35 - 2116

定住促進奨励金交付事業

事業経費 1,000万円

- ・活力と潤いのある誰もが定住を希望するまちづくりを目指す上で、これに貢献する町民に対して奨励を行い定住人口の確保と増加を図ることを目的に実施します。

(助成の概要)

- ・持ち家住宅取得等奨励事業

町民又は定住する意思のあるものが町内に新築又は購入した場合奨励金を交付する。

新築住宅基本額

50万円...新築住宅を購入した場合

中古住宅取得

50万円...町外から転入時に中古住宅を購入した場合。

新築住宅上積額

70万円...町内業者を利用し新築した場合。

融雪溝沿線上積

100万円...中心市街地の融雪溝整備沿線に住宅を新築した場合。

住宅用地取得

30万円...用地購入後1年以内に住宅を新築した場合。

- ・融雪施設設置奨励金

町民自ら居住する住宅の敷地内に新たな融雪施設を設置又は既存の融雪施設を改修した場合費用の二分の一以内(一件につき20万円を限度)の奨励金を交付致します。(但し、改修の場合は20万円以上の経費を要した場合に限ります。)

地域開発課 35 - 2112

公営住宅住環境整備事業

事業経費 217万円

- ・公営住宅の住環境整備は年次計画で進めていますが、今年度は緑町団地57年建設住宅(平屋)の玄関、ベランダ、手摺の補修と、昨年に引き続き住宅前の舗装と側溝の補修を行います。



財政課 35 - 2113

21世紀に生きる人づくりについて

沼田小学校グラウンド改修事業

事業経費 543万円

- ・懸案でありました小学校グラウンド改修のための調査が昨年終了いたしましたので、本年、一部改修致します。

教育委員会 35 - 2132

地域生徒児童学力向上派遣講師の採用

事業経費 204万円

- ・沼田高校の進学率向上及び沼田中学校生徒の、学力を支援することを目的に派遣講師を採用します。



教育委員会 35 - 2132

**ふるさと沼田自立元年
住民との協働で進める
まちづくり**

**「住んでよかった」
未来に向かって
「住んでもらいたい」
ぬまた**

はばたく沼田っ子支援事業

事業経費 300万円

- ・子供達の学習や生活環境、子育て環境等の充実を図ることによって、心身の健全な成長を促し、社会性豊かな“沼田っ子”を育みます。
- ・事業は住民から募った提案を事業審査委員会で検討し、決定します。

[基金対象事業]

- ・学習活動の充実に関する事業
- ・スポーツ等課外活動の充実に関する事業
- ・子育て環境の充実に関する事業
- ・児童の福祉や健康づくりの充実に関する事業
- ・その他当該事業の目的に沿うと判断される事業

地域開発課 35 - 2112

ふるさとづくり寄付条例

事業経費 寄附積立金 100万円

- ・沼田町には「ほたる」や「あんどん」、「化石」、「明日萌」、「雪利用」等、他には多く見られない個性的な取組みが数多くあり、これらは沼田町が責任を持って次世代に引継ぐべき極めて貴重なものです。保存や継承発展等を確実に進めていくため、町民のみならず広く全国の人達から寄付を募ることによって財源の確保と共に多様な人々の参加による個性あふれるふるさとづくりが可能となるものと考えられます。
- ・収受した寄付金は、新たに設ける「沼田町ふるさとづくり基金（通称雪明り基金）」に積立てられ、利用にあたっては寄付者の意向を十分に尊重する事としています。
- ・寄付は一口5,000円を基本として、何口でも受け付けます。（5,000円以下の金額も受け付けます）寄付にあたってはご面倒でも事前にお問い合わせ下さい。

[基金対象事業]

- ・ほたるの里の維持、保全及び整備に関する事業
- ・夜高あんどん祭りの維持、保存に関する事業
- ・化石河床群の保存や化石の研究に関する事業
- ・明日萌ロケ施設の維持、保存に関する事業
- ・雪エネルギーの活用や普及、研究に関する事業
- ・その他目的達成のために町長が必要と認めた事業



地域開発課 35 - 2112

「家でも簡単にできるヨガ運動」 大人気のピラティス教室 53人が受講

町教育委員会が主催した「ピラティス教室」が3月11日、ゆめっくるで行われ、20代～60代の幅広い年齢層の町民53人が受講しました。

第1部と第2部に分けて開催し、講師は道内でも数少ないインストラクターの中川直子さん（札幌市Body Soul所属）を招きました。

ピラティスとは、ヨガやバレエなどを取り入れたフィットネスプログラムで、体のバランスを整え理想的な身体を作るストレッチ運動。大リーグのイチロー選手も取り入れており、ストレス解消や脂肪燃焼などにも効果があります。

教室では、心地よい音楽が流れる中、参加者がマットに座ったり仰向けになりながら、独特の呼吸法を使って腕や肩、脚などをゆっくりと動かし「家でも簡単にできそう」と好評のようでした。



定員をオーバーする人気でした

4 MONTH NUMATA TOWN NEWS

最近のまちのニュース

「お元気で長生きを」 佐藤鶴吉さんが100歳

町養護老人ホーム和風園に入所している佐藤鶴吉さんが、3月10日で満100歳を迎え、西田町長が同園を訪れて上寿祝金を贈りました。

西田町長は「100歳の誕生日、おめでとうございます。お元気で長生きしてください」と話しかけ、佐藤さんも笑顔で応えていました。

本町の100歳以上の方は樋口鉄一さん、沼田忠さん、そして佐藤さんの3人となりました。



上寿祝いを受ける佐藤さん

「食品衛生の向上発展に寄与」 山田英次さんに厚生労働大臣表彰

多年にわたり、地域の食品衛生の向上発展に寄与したとして、このほど本通4丁目在住の山田英次さん（68歳：飲食店経営）が厚生労働大臣表彰を受けました。

山田さんは、昭和43年から現在の飲食店を経営。51年から深川地方食品衛生協会の指導員となり、定期的に研修成果の報告や講習会を行うなど、管内指導員の先頭に立ち、業界の指導育成に努めてきました。58年からは同協会副会長となり、平成6年には道知事表彰も受賞しています。

山田さんは「身に余る光栄。周りの関係者に感謝申し上げたい。飲食サービス業の基本はやはり食の安全と安心。今後も、食中毒事故防止などの指導に努め、業界全体の意識とサービスを底上げしていきたい」と喜びと抱負を語っていました。



表彰状を手に喜びの山田さん

「熱弁に40人が傍聴」 町議会がサンデー議会開催

町民が傍聴しやすいようにと町議会（吉田好宏議長）が開催したサンデー議会が3月12日、第1回定例会に合わせて開かれ、傍聴に訪れた約40人の町民が、議員と町長らの質疑応答に聞き入りしました。

今回で3回目となったサンデー議会は通常、定例会初日に行われる一般質問を日曜日に変更し、途中休憩を挟みながら、午後1時から5時まで開催。いつもは少ない議場内の傍聴席も埋まり、モニターを設置した第2会場にも傍聴者が訪れていました。

一般質問は、西田町長に対して9氏が質問に立ち、農業問題やほろしん温泉ほたる館の経営問題などについて熱弁を振るいながら答弁を求めています。



大勢の傍聴者が訪れたサンデー議会

4 NUMATA TOWN NEWS

最近のまちのニュース

「ご寄付ありがとうございました」 吉田俊一さん 町に100万円

平成16年度北海道社会貢献賞（自治功労）を受賞した吉田俊一さん（76）が3月3日に町長室を訪れ、「町発展のために使ってください」と100万円の寄付をいただきました。

西田町長は「ありがとうございます。大切にさせていただきます」とお礼を述べ3月18日、ほたる館で行われた祝賀会で同氏に感謝状を手渡しました。



西田町長に寄付を渡す吉田さん

「15年ぶりにデザイン一新」 沼田の交通安全旗

住民総ぐるみの運動を展開している町交通安全推進委員会（西田篤正会長）と交通安全協会（小西克仁会長）が、このほど交通安全旗のデザインを15年ぶりに一新して作製しました。

昨年12月17日に交通事故死ゼロ2000日を達成したことから、2500日に向け新たな気持ちで展開していこうと作り替えたもので、従前の旗は、本町の名物祭り「夜高あんどん」のデザインがあらわれていましたが、今回は平成14年に誕生した雪キャラクターの「ピカゾー君」と「スノンちゃん」を採用しました。

各支部（町内会）の街頭啓発用として小型旗を700枚、学校や事業所用として大型旗を50枚作製し、3月下旬の町交通安全支部長会議などで手渡しました。



デザインが一新された交通安全旗

「簡単体操でヘルシーアップ」 ふれあい健康づくり講演会

町が主催したふれあい健康づくり講演会が3月15日、ふれあいすこやかホールで開催され、町民50人が参加しました。

冬場などの運動不足を解消するため、町民誰もが参加できるようにと「ふれあいヘルシーアップ会」を毎週月・木曜日にすこやかホールで開催していることから、同会で実践している「365歩のマーチ簡単体操」の発案者である日本エアロビクフィットネス協会インストラクターの山田泰子先生を講師として招きました。

講演会では、難しい話は一切なく、タオル1本を肩に下げ、さっそく簡単体操を実践。テンポの良い曲に合わせながら、リズムカルに腕や肩、腰や脚などを動かしたり、タオルを使ったりして体を動かし参加者は心地よい汗を流していました。



リズムカルに動かす参加者たち

「北方四島の正しい理解と認識を」 北方領土を知る沼田町民の集い

北方領土復帰期成同盟空知支部と町、沼田長生クラブが主催した「北方領土を知る町民の集い」が3月16日、ゆめっくるで行われ、町民100人が参加して北方領土問題の知識を深めました。

地元主催者の西田町長が「国がしっかりと基盤を作り国民あげて取り組まなければならない」とあいさつし、続いてビデオを上映した後、同支部の小笠原五郎推進員が講演しました。

講演では、スライドを使って北方領土の歴史や返還運動の経過をわかりやすく説明し「北方四島は日本固有の領土である」ことを強調。また、北方四島交流訪問の写真を公開し「国民一人一人が正しい理解と認識を持ち、身近な問題としてねばり強く返還運動を続けていく必要がある」と訴え署名活動などの協力を呼びかけていました。



北方領土の知識を深めた町民集会

まちのニュースは、沼田町公式ホームページで随時更新されていますので、いち早くご覧になることができます。

ホームページアドレス <http://www.town.numata.hokkaido.jp>

「フォトコン作品が絵はがきに」 町観光協会で1000組作成

毎年、明日萌の里フォトコンテストを主催している町観光協会（広野伸一会長）が、作品を広くPRして町に観光客を呼び込もうと絵はがき1000組を作成しました。

絵はがきは1組5種類で、町の一大イベントである「夜高あんどん」や観光地の「明日萌駅」、まちづくりのシンボルとなっている「ほたる」など、いずれも2004年同コンテストの入賞作品がカラーで刷り込まれています。

同事務局では「沼田の魅力を多くの方に知ってもらうために、ぜひ絵はがきを利用してほしい」とPRしています。絵はがきは5枚1組で300円。4月から町内各商店で販売しています。問い合わせは、役場地域開発課35-2112まで



沼田の魅力が伝わる一セット

「沼田獅子新しくなりました」 コミュニティ助成で獅子舞用具購入

越中沼田獅子舞保存会（吉田俊一会長）が財団法人自治総合センターのコミュニティ助成を受け20年ぶりに獅子舞用具を新調しました。今回購入したのは、大獅子の胴1、小獅子の頭と胴を各2、また衣装として半纏15枚、袴15枚、前掛け15枚、笛10本、手ぬぐい100本。

この事業は、同センターが全国自治宝くじ普及広報事業費として受け入れる宝くじ受託事業収入を財源として、コミュニティ活動を促進しその健全な発展を図るとともに、宝くじの普及広報を目的として行われているものです。

同会では、沼田神社例大祭やコミュニティ事業などで使用していくこととしており、今回の購入で一層活動が充実していくことが期待されます。

【宝くじは、広く社会に役立てられています】



新しい獅子に喜ぶ保存会の方々

4 MONTH NUMATA TOWN NEWS

最近のまちのニュース

「春の陽気の中、30人が滑走」 ほたる館歩くスキーの集い

ほろしん温泉ほたる館歩くスキーの集い（同館主催）が3月20日、幌新ダム周辺の特設コースで行われ、空知・上川管内などから愛好者30人が参加しました。

コースは、幌新ダム1周の7キロと、同館周辺2キロの2種類。今年は積雪も多く、コースも例年以上のコンディションで、参加者は春の陽気の中、さっそうと滑り快い汗を流していました。



自然を満喫して滑る愛好者たち

「シーズン最後の滑り、楽しむ」 明日萌・ほたるの里歩くスキーに400人

北空知管内でスキーシーズンの最後を飾る「明日萌の里・ほたるの里歩くスキーの集い」（同実行委員会主催）が3月27日、ほろしん温泉ほたる館周辺の特設コースで行われ、道内各地から集まった愛好者ら400人が完走を目指しました。

大会コースは、明日萌駅付近から出発する16キロと幌新ダム1周の7キロ、そしてほたる館周辺を周る2キロの3コース。自然の中をのんびりと滑走できるコースとあって、毎年各地からバス等で参加する団体も多く、この日も、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が参加していました。

大会終了後には、町民ボランティアが用意した豚汁やホットミルクで体を温め、また恒例のバイキング昼食に舌鼓を打ち、参加者同士の親睦を深めていました。



幅広い年齢層の愛好者が参加した

4 NUMATA TOWN NEWS

最近のまちのニュース

故土田武さんに特別叙勲 町議 4 期 地方自治の伸展に尽力

元町議会議員の故土田武さん（共成）が、地方自治の伸展に尽力したとして、生前の功勞に対し特別叙勲（旭日単光章）が贈られ3月28日、空知支庁地域政策部の千葉俊巧部長から奥さんの土田登美子さんに伝達されました。

土田さんは、町議会議員として4期16年の永きにわたり要職を歴任。産業振興など町全般にわたり尽力し、町発展に大きく貢献しました。



伝達を受ける土田さんのご家族

斉藤孝男さん 道社会貢献賞 環境衛生の発展向上に尽力

永年にわたり、地方自治における環境衛生の発展に貢献した方を表彰する北海道社会貢献賞（清掃事業功勞者）に、斉藤孝男さん（67歳：沼田清掃代表）が選ばれ3月28日、空知支庁地域政策部の千葉俊巧部長から伝達されました。

斉藤さんは、昭和49年から沼田清掃に勤務されて以来、本町の塵芥収集業務に携わり、昭和63年には同社を町塵芥収集指定業者に登録。平成15年から同町が新たなごみ分別を実施した際、いち早く対応し、住民に対して正しいごみの分別意識を普及させるなど、町の環境衛生に尽力を注いできました。

斉藤さんは「清掃事業者として当たり前のことをやってきただけ。今後も、きれいなまちづくりに貢献できれば」と控えめに語っていました。



賞状の伝達を受ける斉藤さん

「雪中米 9 年目の祈願」 ファクトリーで雪入れ式

雪中米の出荷をしているスノークールライスファクトリーで3月31日、恒例の雪入れ式が行われ、西田町長らが掛け声をかけながらスコップで雪を入れ、雪中米の9年目を祝いました。

北いぶき農協の岡田組合長は「今回で9回目となるが今後も続けて行き、雪中米の良い評価を受けていきたい」とあいさつ。西田町長は「雪山センタープロジェクトも徐々に進められている。雪中米などの取り組みを道内外へ発信して、利雪のまち沼田町を全国にPRしたい」と語りました。

またこの日は、町雪の科学館の雪冷房で備蓄してきた米の試食会も行われた。特に、平成12年産の米は色、ツヤ、味もよく、アミロースの変化もほとんどなく、出席した農業関係者らは確かな手ごたえを感じているようでした。



雪中米9年目の祈願をした雪入れ

池田久夫さん 厚生労働大臣表彰 民生委員22年の功績が評価

永年にわたり、民生委員として地域の福祉活動に貢献したとして、共成在住の元民生員池田久夫さん（74：農業）に厚生労働大臣特別表彰が贈られ3月30日、西田町長から伝達されました。

池田さんは、昭和57年4月に厚生労働大臣から民生委員に委嘱されて以来、昨年11月30日に退任するまで、22年7カ月の永きにわたり、担当地区の把握に努め被保護世帯の自立更迭を図るとともに、地域の心配ごと相談員として住民の支えとなり、またボランティア活動に積極的に参加するなど福祉活動の功績が評価されました。

池田さんは「表彰をいただき大変光栄です。お世話になった民生委員の先輩諸氏や地域の方のおかげです」と22年間を振り返りながら喜びを語っていました。



表彰状を手に喜びの池田さん

まちのニュースは、沼田町公式ホームページで随時更新されていますので、いち早くご覧になることができます。

ホームページアドレス <http://www.town.numata.hokkaido.jp>



そのあと、西田町長と西野陽一北竜町長、国土交通大臣政務官の伊達忠一さんらによりテープカットやくす玉を割ったほか来賓や関係者を乗せた約二十台の車が北竜ひまわりICへ向かって走り初めをしました。

高

規格幹線道路深川留萌自動車道の沼田―北竜ひまわりＩＣ（インターチェンジ）間の開通式が二十七日、同自動車道の沼田ＩＣ本線で行われ、札幌開発建設部など関係者のほか衆参道議、沿線自治体首長、商工関係者らが参列してテープカットや走り初めで開通を祝いました。

この日の午後三時に一般供用された沼田―北竜ひまわりＩＣ間は、距離が七・一キロ、制限速度七〇キロの片側一車線道路で、すでに完成している深川ＪＣＴ（ジャンクション）―沼田ＩＣ間に加え、新たに沼田―北竜ひまわりＩＣ間の開通により二十六・一キロが整備され、深川市から北竜町までの走行時間が約六分短縮されることになりました。

開通式には、関係者約百人が出席。札幌開発建設部の本名一夫部長が、事業を推進していただいた関係者のご尽力に厚くお礼申し上げたい。留萌まで開通すれば、地域産業の活性



通行無料

こちら 沼田警察署 35-3110

自動車・オートバイの 盗難被害の防止と防 犯登録をしましょう

自動車には丈夫な鍵と登録を
オートバイにはハンド
ルロックとグッドライダ
ー防犯登録を

春を迎え、自転車やオート
バイを利用する機会が多くな
ると盗難被害も増加します。
大切な自転車やオートバイが
盗まれないよう
●丈夫な鍵を取付け、確実に
ロックする
●オートバイには、ハンドル
ロックをする
●万が一盗まれたときの早期
発見のために防犯登録をする

ことが大切です。
防犯登録の手続きは、指定さ
れた販売店で行っています。
登録すると、登録番号や車体
番号から持ち主がわかります
ので、被害回復の可能性が非
常に高くなります。
自転車やオートバイの防犯登
録をしていない方は、すぐに
登録しましょう。登録費用は
自転車が五〇〇円で十年間、
オートバイが九〇〇円で七年
間登録されます。

山菜取りによる事故 を防ぎましょう

山菜採り 無我夢中に
落とし穴

野山の味覚として親しまれ
ている「山菜」。例年、たく
さんの愛好者が、それぞれの
穴場に入山し、方向を見失つ
たり、沢への転落や熊に襲わ
れる事故が起きています。
特に、過去の事例を見ます
と、タケノコ採りに夢中とな
って背丈以上もある笹藪の奥
深く入って方向を見失うケー
スが多く、また、熊に襲われ
る事故も発生しています。
慣れた山でも、油断すると
そこに事故の「落とし穴」が
あることを忘れずに、楽しい
山菜採りを満喫しましょう。

【事故を防ぐためのポイント】

- 一人で山菜採りには行か
ない。
- 家族等に行き先と帰る時間
を知らせる。
- 一緒に入った仲間と声を掛
け合ったり、ラジオを鳴らす
など、絶えず位置を知らせ合
う。
- 歩いた場所がわかるように
テープ等で目印を付ける。
- 万一のため、目立つ服装を
し、笛や雨具等を携帯する。
- 道に迷った場合は、体力の
消耗を考え落ち着いて行動す
る。
- 携帯電話や非常食、熊除け
のために鈴やラジオを携帯す
る。
- 熊の出没情報に注意すると
ともに、熊の足跡や糞を見た
ときにはすぐ引き返す。



【万一迷った時には】

- まず、焦らず深呼吸したり
して、心を落ち着かせる（周
りを良く観察し自分の位置を
確認する）。
- 暗くなつた場合は、野宿す
るなど明るくなつてから行動
する（危険防止のため）。
- むやみに動き回らないよう
にする（体力消耗防止）。
- 木陰や岩場など雨や夜露に
濡れないようにする（体温低
下防止）。
- 搜索のヘリコプターから見
えやすい場所に出る（広場、
樹木が少なく空が見通せる場
所に出る）。
- 木の枝、竹などの先にタオ
ルやテープ等の目印を付け合
図する。

新入学（園）児の交通 事故を防ぎましょう

よくみてね！ いっぱい
のびした もみじの手

【子どもの方へ】

新学期が始まり、学校や幼
稚園に初めて通うことになつ
たお友達がたくさん歩いてい
ます。
●お兄さんやお姉さんは、道
路を渡ったり歩道を歩くとき
は、新入生のお手本になるよ
うにしっかりと行動しましょう。

●道路を渡るときは信号が青
色になつても、あわてないで
車が止まるのを確かめてから
渡り始めましょう。

●トラックやダンプカーなど
の大きな車には、運転手さん
から見えないところがたくさん
あります。近くで遊ばない
ようにしましょう。

●止まっている車の前や後ろ
からの横断は、とても危険で
す。絶対にやめましょう。

【ドライバーの方へ】

●真新しいランドセルを背負
つたり、通園カバンを肩にか
けた子どもの姿が目につく季
節になりました。子ども達を
見かけたら、自然にアクセル
をゆるめ、学校や公園の近く
を通るときは、特に慎重な運
転に心掛けましょう。

【保護者の方へ】

●交通ルールは、事故を起こ
したり、被害に遭わないため
の大切な決まりです。お父さ
んやお母さんが、日常生活の
中でお手本を示しながらしつ
かり教えてあげましょう。
●保護者の方は、お子さんと
通学・通園路を一緒に歩いて
危険な場所や車の危険な動き
について分かりやすく教えて
あげて、安全な行動が取れる
ように指導しましょう。



沼田幼稚園入園式



沼田中学校入学式

生涯学習だより ゆめつくる

沼田町教育委員会生涯学習推進室

ご意見・ご相談はお気軽に

教育委員会

電話 35 - 2132

子育て 悩み 相談
子ども 電話

専用 35 - 1912

4月になり、町内の幼小中高校で入園式入学式が行われました。中学校の入学式は、6日の午後1時より行われ、制服姿の39名が決意も新たに中学校生活をスタートしました。7日の午前10からは、幼稚園の入園式が行われ、明るく元気な新園児28名が入園しました。また、6日には小学校（表紙）の入学式、8日には高校の入学式も行われました。

教職関係職員転入出一覧（本年度、教職員の転出転入者を紹介します）

転出された方（転出先）

岡 本 佳 彦	沼小より深川市立音江小学校
村 山 佳 孝	沼小より岩見沢市立岩見沢小学校
吾 子 菊 代	沼小より深川市立音江小学校
長谷川 昌 子	沼小より滝川市立第2小学校
森 川 ひとみ	沼中より深川市立一己小学校
山 本 幸 恵	沼中より南幌町立南幌中学校
大 柳 則 子	沼中より深川市立北新小学校
吉 田 安 宏	自己都合退職
松 浦 宣 美	沼高より滝川市立滝川西高等学校
大 城 雅 則	沼高より旭川市立旭川北都商業高等学校
細 川 善 彦	沼高より私立旭川大学高等学校

転入された方（転入先）

若 林 裕 美	赤平市立住友赤平小学校より沼小
工 藤 知 子	幌加内町立朱鞠内小学校より沼小
下 原 登志一	北竜町立真竜小学校より沼小
南 洋 子	深川市立一己小学校より沼小
橋 本 幸 代	南幌町立南幌中学校より沼中
尾 崎 由紀江	深川市立音江中学校より沼中
中 岡 幸 江	深川市立納内中学校より沼中
住 吉 静 雄	砂川市立砂川中学校より沼中
高 橋 祥 子	大滝村立大滝中学校より沼中
中 島 悟	月形高等学校より沼高
西 村 直 子	士別商業高等学校より沼高
高 田 正 昭	滝川高等学校より沼高

体育施設開放のお知らせ

町民体育館・・・・・・・・・通年（月曜日休館）
柔剣道場・・・・・・・・・通年（月曜日休館）
中学校体育館・・・・・・・・・通年（土・日・祝日休館）
野球場・・・・・・・・・5月1日～9月15日
プール・・・・・・・・・6月1日～9月15日

テニスコート
ゲートボール場 5月1日～10月31日
体育館パークゴルフ場
雨龍川運動公園町民パークゴルフ場
・・・・・・4月29日（予定）～10月31日

おはようラジオ体操

みなさんが楽しみにしている「おはようラジオ体操会」が今年も6月1日から始まります。毎朝6時30分より役場前広場で行います。新鮮な空気を胸いっぱい吸って毎日続けましょう。また、ラジオ体操の前後にウォーキングすることも健康な体づくりのもととなりますので実践してみましょう。



ゆめつくる 図書館だより

図書館からの お知らせ

絵本の読み聞かせ ボランティア募集しています♪

子どもたちに絵本の読み聞かせをしてみませんか？
沼田町図書館では、お話し会を実施しています。
絵本を読んで、子どもたちと一緒に楽しい時間を
過ごしましょう！

★★ボランティア活動でいきいき★★
不明な点は何なりとお問い合わせ下さい。

沼田町図書館 TEL：35-3515

図書館ではDVDや ビデオも見られます！！

★新しく入りました★

「ラスト サムライ」(映画)
「木更津キャッツアイ 日本シリーズ」(映画)「シ
カゴ」(映画)
「ザ・リング」(映画)
「アメリ」(映画)
「ブラック・ジャック」(アニメ)
「KIRIKOU キリクと魔女」(アニメ)
「ファインディング ニモ」(アニメ)
「リロ アンド スティッチ」(アニメ)
「かいけつゾロリ9～14」(アニメ)

最新号以外の雑誌も 貸出ししています

「クロワッサン」「サライ」「趣味の園芸」
「素敵な奥さん」「美しい部屋」「おしゃれ工房」
「たまひよこっこクラブ」「婦人公論」
「ゆうゆう」「婦人公論」「MORE」
「NON NO」「日経エンタテインメント」
「じゃらん」「AERA」
「Hokkaido Walker」
「Number」「MONO」「現代農業」
「財界さっぽろ」「日経PC」
「パークゴルフビュー」等

金曜日は夜8：30まで開館しています
どうぞご利用ください

利用案内

月曜日……………14：00～18：00
火～木曜日……………10：30～18：30
金曜日……………10：30～20：30
土・日・祝日……………9：30～17：00

1人10冊 2週間

新しく 入った本

一般書

ホテル・クロニクルズ……………青山 真治(小説)
ロシアン・ルーレット……………山田 正紀(小説)
いい女……………藤本 ひとみ(小説)
告白……………町田 康(小説)
君を乗せる舟……………宇江佐 真理(小説)
篠山早春譜……………澤田 ふじ子(小説)
半島を出よ(上・下)……………村上 龍(小説)
ユグノーの呪い……………新井 政彦(小説)
十津川警部「警部」(上・下)……………西村 京太郎(小説)
とっても不幸な幸運……………畠中 恵(小説)
空耳アワワ……………阿川 佐和子(エッセイ)
笑いの力……………河合 隼雄
ヒエログリフがわかる絵本……………大英博物館
絵本であそぼ！……………パパ'S絵本プロジェクト
偶然の確率……………アミール・D・アクゼル
美肌への誘い……………熊野 可丸
“ブラジャーをする男たちとしない女”……………青山 まり
イマダ……………柴田 理恵
リアル(1～4)……………井上 雄彦(漫画)

児童書

日本なんでも年表……………日本なんでも年表委員会
クール・ムーンライト……………アンジェラ・ジョンソン
フェリックスと異界の伝説1……………エリザベス・ケイ
根津あかね……………いわむら かずお
カブトムシ(生きものずかん)……………野村 周平
死神から買ったマフラー……………小暮 正夫
くまざわくんのたからもの……………きたやま ようこ
むしのうんこ……………伊丹市昆虫館
ガストンとルシア……………ロジェ・ファリゴ
せかいのこっき……………宇川 育
デルトラ・クエスト2影の門……………エミリー・ロッダ
“うぁー、すごい旭川・旭山動物園”……………今津 秀邦

幼児の絵本

はるはゆらゆら……………五味 太郎
きつね……………鎌田 暢子
しろねこちゃん……………Maya Maxx
だっこだっこねえだっこ……………長 新太
ごほん！ごほん！ごほん！……………ティファニー・ピーク
だいすきなグー……………いもと ようこ
まめうしとひめうし……………あきやま ただし
のりものずかん……………わらべ きみか
るんたのおねつ……………のぶみ



楽しかった2日間の体験ツアーが終わり、みんなで記念撮影

けいせつ 雪だより

column VOL.51

雪の学校連載コラム

特集 沼田町雪国文化体験ツアー

雪を知り雪と遊ぶ雪国文化体験ツアーが二月二十六・二十七日、ほろしん温泉ほたる館で行われ「冬のほたる」と同時開催されました。

講師は、北星学園大学教授（元北大低温科学研究所長）

の秋田谷英次氏を招き、二日間に渡り様々な雪体験を行いました。参加者の中には、昨年の夏に行った体験ツアーに参加した方も多数いました。

一日目は、スノーランタンづくりや冬のほたるを見学をし、二日目には、除雪車の体験搭乗やアイスクリーム作りなど、盛りだくさんの内容で冬の外遊びを親子で満喫しました。意見交換では「楽しかった



スノーランタンの飾り台を製作中



自分で製作し灯したランタン



4輪バギーで爽快に走りました

こと」や「こんな遊びもしたかった」などの感想を発表しあい、今後の体験ツアー実施に向け貴重な意見をいただきました。

最後に、秋田谷先生から、五感を使って身体でおぼえることは、とても大切なことだ

と話していました。
今回参加した子どもたちが大人になって子どもを持った時にまた、参加してくれるよう、この体験ツアーを育てて行くことが大切だと感じました。

【雪の学校主任研究員 伊東宏樹】



雪の断面を観察して積り方を学習



簡単な道具で雪タワーを製作しました



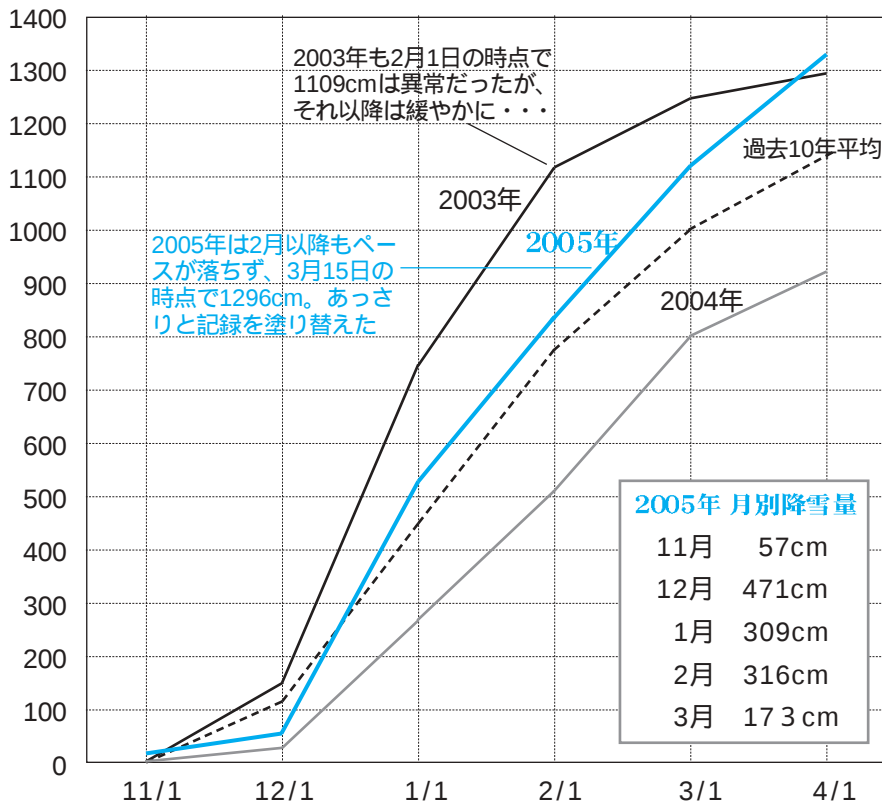
除雪作業車の搭乗体験



雪と塩を使ってアイスクリーム作り



力を合わせてロープでそりレース



降雪量が町観測史上最高を記録

今年の冬は、十一月三月まで毎月コンスタントに雪が降り続き、二〇〇三年に記録した一二九四cm(市街)を更新しました。

雪
降るわ降るわで
13m
超えちゃった

降雪量累計 (市街地：町除雪センター調べ)

単位：cm

年度 / 月日	11/1	12/1	1/1	2/1	3/1	4/1
2003年	4	249	743	1109	1244	1294
2004年	0	28	272	508	799	918
2005年	10	57	528	837	1153	1326
過去10年平均	2	110	457	773	1001	1150

雪

と共生するまちづくりを進めている本町で、町民にもっと雪に親しんでもらおうと「2005輝け雪のまちフェスタ」(同実行委員会主催・横山昌利実行委員長)が三月十一日と十二日の両日、役場前特設会場で開催され、延べ三〇〇人の親子連れで賑わいました。

平成十四年六月に町が「輝け雪のまち宣言」をしたのがきっかけで始まり、今年が3回目の開催。道内でも有数の豪雪地として知られることを逆手とり、有り余る雪を利用し、あえて春も間近な3月中旬に開催して利雪・親雪をPRしています。

会場には、長さ四〇mのジ

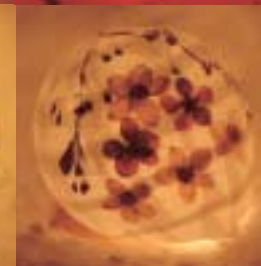
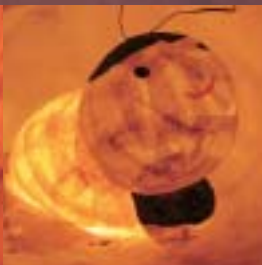
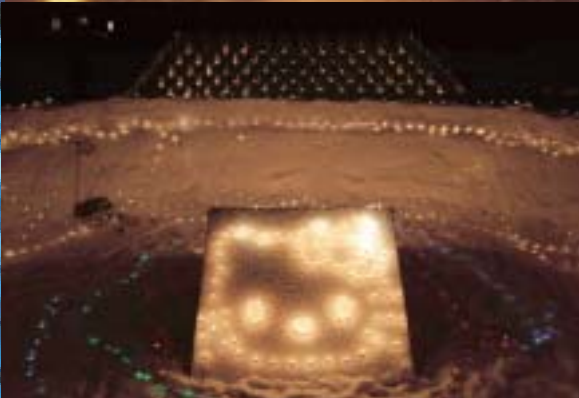


「豪雪なんのその！」輝け雪のまちフェスタ
ジャンボ滑り台に子どもたち歓声



ジャンボ滑り台が作られ、子どもたちが次々とマットやタイヤチューブに乗り込み、スピード感あふれる豪快な滑りを楽しんだほか、2日目のアトラクションでは、豪華景品があたる雪上親子ばんばや雪中バトルなどが行われ、会場に歓声が上がっていました。

また、無料提供の豚汁・あげイモも好評で、大型かまぐらの中で食べながら体を温めるなど、参加者は最後の冬のイベントを満喫しているようでした。



冬のほたる

Winter Hotaru Illuminations



冬のほたる幻想的な舞いで魅了

ほろしん温泉ほたる館で初の冬イベント 9日間開催
電飾スノーランタンで演出 ミニあんどん200個も

ほろしん温泉ほたる館周辺を幻想的に飾り付けるスノーファンタジーぬまた「冬のほたる」～雪と炎～が2月25日から3月5日まで、同温泉特設会場で開かれ、多くの観光客を楽しませました。

同実行委員が主催。ホタルが飛び交うイメージを冬のほたるの里に再現しようと今回初めて開催されたもので、会場には様々な趣向が凝らされ、訪れた観光客らを魅了しました。

冬のほたるは、電飾を使ってまるでホタルが飛んでいるような空間をつくったもので、札幌市の照明家がプロデュース。雪の回廊は、ほたる館からメイン会場までの雪の壁に町民が製作したミニあんどん約二百個を飾り、電球を仕込んで点灯させました。このほか夜高あんどん祭りで使う「吊りあんどん」2基が展示され、周囲には火を焚いてムードを盛り上げていました。そしてメイン会場では、スノーランタンで和やかな光りを演出したスノーウォールやスノータワー、アニメキャラクターに電飾をほどこしたファンタジードームが設置され、家族連れが記念撮影をしていました。

また、雪の屋台市が店開きして、「ばんじゅう」や「クレープ」「そば・うどん」などの食べ物のほか、ホタルのように緑色に発色するライトを仕込んだノンアルコールカクテル「ほたるスペシャル」が販売されて好評を得ていました。

さらに、初めて開かれる催しを盛り上げようと、アマチュアバンドの演奏会「ファイアーライブ」が2月27日、ほたる館クリスタルホールで催され、地元沼田と深川、札幌から五つのバンドが出演して花を添え、多様な曲を披露し観客から大きな拍手を受けていました。

3月4日には北空知南留萌広域観光連絡協議会が明日萌鍋を先着100人に提供し、訪れた観光客は体を温めていました。



平成17年度

各種健診のお知らせ

自己の健康を振り返るために、1年間の健診の計画を立てましょう。なお、次のことに注意し、期日までにお申し込み下さい（4月下旬各家庭に申し込み書送付予定）。

健診対象者の確認を！

毎年、医療にかかっていたり、職場で健診を受けているにもかかわらず、重複して住民健診を受けている方が数多くいます。本来、住民健診の対象外となりますので、今一度ご確認の上、お申し込み下さい。



循環器検診の有料化（1000円）

昨年からがん検診の有料化を始めましたが、循環器検診も同様に実施します（一部対象者無料）

結核・肺がん検診が変わります

結核予防法の改正（平成17年4月1日）に伴い、従来15歳以上で実施していた結核検診がハイリスク対象の65歳以上に引き上がります。ただし、肺がん検診は従来どおり40歳以上です。



ふれあい
Information

こんにちは保健師です

Spring

4

平成17年度 各種健診日程表

検 診 名	対象年齢	料 金	日 程	会 場	備 考
総 合 健 診					
循環器検診	30・35歳と40歳以上	1,000円	7月12～15日 11月21～22日	ふれあい (健康福祉総合センター) 	※身体計測、検尿、 血圧測定、血液検査、 眼底検査、心電図検査、胸部レントゲン検査
結核・肺がん検診	40歳以上	1,000円			
胃がん検診	35歳以上	1,000円			
大腸がん検診	40歳以上	1,000円			
女性の 1 日総合健診（健診結果説明なども当日行います）					
循環器検診	30・35歳と40歳以上	1,000円	7月7日 7月26日 7月28日 11月24日	旭川厚生病院 健診センター	※役場から旭川厚生病院健診センターまで送迎のうえ、 1日日程の中で結果が出ます。 (役場前 7:30出発 16:30頃帰郷予定)
胃がん検診	35歳以上	1,000円			
大腸がん検診	40歳以上	1,000円			
結核・肺がん検診	40歳以上	1,000円			
子宮がん検診	20歳以上 (2年に1回の間隔)	1,000円	子宮がん：昨年より、検査方法は頸部がん検診のみ、対象者は20歳まで引き下がってます。 乳がん：昨年より、視触診のみは中止し、従来対象者となっていた30歳代の方は検査対象外となっています。 ※昨年度住民健診内で受けた方は、今年度受けられません。(申込用紙に斜線)		
乳がん検診	40歳以上 マンモグラフィ+視触診セット (2年に1回の間隔)	1,000円			
子宮・乳がん検診					
子宮がん検診	20歳以上 (2年に1回の間隔)	1,000円	12月2日	ふれあい (健康福祉総合センター)	※他、子宮体部がん検診、超音波検査は全額自己負担となります。
乳がん検診	40歳以上 マンモグラフィ+視触診セット (2年に1回の間隔)	1,000円			

※エキノコックス検診は、後日お知らせいたします。

【問い合わせ先】 住民生活課 保健指導班 電話 35-2120

予防接種が変わります



平成17年4月より結核予防法の改正に伴い、予防接種の受ける時期や方法が変わります。
定期予防接種の対象となっている病気は、かかると重い症状や後遺症を残す可能性があるものです。お子さんの健康のために、もう一度母子手帳を見直してみてください。

予防接種のここが変わる

BCG予防接種

H17.3まで **生後1歳までにツベルクリン反応検査を受けてから48時間後**に接種
(変更前)

H17.4から **生後6ヶ月までにBCGを直接**接種
(変更後)

注意 すでにお子さんが1歳を超えていてBCGを接種していない方は、ふれあいで接種（任意）できます！（くわしくは母子年間日程表をご覧ください）

予防接種一覧表

		3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳
定期 予防 接種	ポリオ	↓	↓	↓	↓												
	DPT 期	↓	↓	↓	↓												
	DPT 期														↓		
	麻しん				↓												
	風しん				↓												
	BCG	↓															

■ : 標準的な接種期間 ■ : 接種が定められている期間 ↓ : 接種



成人の方も注意が必要です

その1 すべての方へ

妊娠中の女性が風しんにかかると胎児に重大な影響を残す可能性があります。風しんにかかったことのない方・予防接種を受けていない方は病院での接種をお勧めしています。

その2 昭和50年～52年生まれの方へ

この年代の方はポリオの予防接種を受けていても確実に免疫がついていない可能性があります！ 町で行われるポリオの予防接種時に再接種をお勧めしています。

